

150文庫 目次

Let's Read Project 2009

はじめに

150文庫



哲学	4
教養・文化	8
数学	17
ハウツー	20
雑学	23
ノンフィクション	27
エッセイ	30
SF・ファンタジー	42
ミステリ・ホラー	49
青春・恋愛	56
古典	60
現代小説	62
ライトノベル	70
海外小説	76

活動報告 この一年の歩み



新入生歓迎本棚「今週の本棚さん」	88
国立国会図書館見学	90
コミック・アゴラ 2009	94
体感しよう！絵本の世界	96
この一年を振り返ってひとこと。	98

「150 文庫」ブックリスト (50音順)

はじめに

二〇〇九年の春先、私は Let's Read project (LRP) のコーナーに文庫本だけの本棚をつくりたいと考えていた。それが企画として通り、十月末に企画棚として公開、そして企画の締めとしてこのような冊子にまとまることになった。

なぜそんな本棚をつくりたいと思ったのだろう。無論、それにはちゃんと理由がある。各出版社は毎年初夏あたりに文庫本のフェアを行っていて、書店に行けばお馴染みの風景である。これをうちの大学図書館でもできないだろうか、と思ったのだ。

まず早い段階ですでに「150文庫」という「語呂」ができており、図書館内にあるなしに拘わらず、全部で一五〇冊程度になるように、LRPのメンバー各自が十冊程度文庫本を選んでくることになった。選定にあたり「新規購入本のシリーズ物は頭の三冊まで」「絶版本（入手不可）は対象外」「新書サイズでも『文庫』と銘が打ってあれば可（岩波少年文庫など）」といったルールが定められ、文庫本は集められた。当初は「文庫の棚」ということで、「文庫本のサイズ」を意識していたが、最終的には「蔵書・コレクション」の意味を含んだ「文庫」にもなり、棚にはさまざまな本が並んだ。

しかし、並べてみてわかったのだが、棚の大きさに対して圧倒的に本の数が少なかった。初期に発せられた「一五〇〇冊くらい並べようぜ」というジョークが現実味を帯びてきてしまったのだ。今後文庫で企画を打つときの教訓にしたい。

さて、冊子化にあたり、それぞれの本の全てに選定者からのコメントがつけられた（各々提出期限をぶっちぎったが終わりよければなんとやら）。本を選ぶときの参考になれば幸いである。また、合わせて「本の顔」である表紙の画像（書影）をのせたいと願う、それに対して各出版社にはその使用についてご快諾をいただいた。この場を借りてお礼を申し上げます。

昔から学生と本は相思相愛かつ犬猿の仲であり、好き嫌いはどうであれ、本との関係は切っても切れぬほど深いものであった。ところが最近では学生が本を手にとる機会が減り、本とは赤の他人になろうとしている。だが、「文庫本」というどこでも読めて手軽に買える媒体が、学生と本の復縁にきつと一役買ってくれるに違いない。

学生諸君、本たちは仲直りの右手をいつでも差し出している。君たちが自分の右手を差し出すその日まで、いつまでも、だ。

我々の時間は限られている。手を出し渋って握手を逃すことだけはないことを祈り、この序文を締める。

哲学

ワコオ
150
文庫



茂木健一郎著
講談社文庫
©講談社
600円

「幸せ」は物を豊かにするだけの
ことじゃない！

著者である茂木さんが、十一歳の時に「赤毛のアン」を読んで気付いたことをきっかけに書いた本です。例えば、「想像する幸せ」、「現実より仮想」など、何かを「想像」するということとが「生きる幸せ」になると書かれています。そのように、生きることを豊かさに繋げていくきっかけになるかもしれない一冊です。

(ドラ息子)

「赤毛のアン」に学ぶ
幸福になる方法 (6)

※タイトルの下の(数字)は巻末ブックリストのNo.です。
※表紙画像は版元の許諾を得て使用しています。

『キリストにならいて』(44)

キリスト教理解のための書



トマス・ア・ケンピス著
岩波文庫
© 岩波書店
693円

本書は神学者ケンピスが修道士たちの生活のために著したものだ。つまりクリスチャンのために書かれたものだが是非一般の方にも読んでもらいたい。傲慢で排他的、視野が狭くなりがちという日本人的な悪癖の改善のためである。まったく別の文化によって育まれた思想を吸収するということは決して無益なことではないはずだ。「必要ない」。そう排他的にならず是非一読されてみてはいかが？

(二都)

『死に至る病』(61)

死に向かうしかないのだろうか



キエルケゴール著
岩波文庫
© 岩波書店
630円

現代人の心の病は重大な社会問題と化している。キエルケゴールは「死に至る病とは絶望のことである」という考えのもと、この本を書きの中に登場する多くの哲学者などに影響を与えた。読みやすい本ではないが、人間を考えていく上での重要な著作である。

(三都)



竹田青嗣著
ちくま学芸文庫
© 筑摩書房
777円

生かしてみる！

哲学の興味はどこから生まれるものでしょうか。もつと言うなら、「興味」はどこから出てくるでしょうか。どんなものでも「理解する」ということが出来たなら、その「喜び」や「次への興味」が出てきます。ただ、著者である竹田さんは生かすことに意味があると言っています。「自分で自分を深く知るため」または「自分と他者の関係を深く知るため」の技術。これが竹田さんの言うところの「生かす」ことになりそうです。何かに生かす練習のために読んでみてはいかがでしょうか。

(ドラ息子)

『自分を知るための哲学入門』

(63)



鷺田清一著
ちくま文庫
© 筑摩書房
630円

衝撃！

ファッションを哲学しちゃった本!?

この本は、大阪大学の現総長である、哲学者が著した、哲学書だ。この紹介の仕方、**「ちぐはぐ」**に感じたかもしれない。確かに、哲学書らしからぬタイトルだ。しかし、これも哲学書なのである。この本は、十代に向けたシリーズの一冊だったもので、ファッションや身体について考察している。専門用語をあまり用いず、平易な言葉で書かれている。しかし、手を抜いてはいない。著者の研究人生から導き出された、ファッション論、身体論が展開されている。この本を読むと、ファッションや身体を、今までより気にするようになるはずだ。それも哲学である。哲学史を学んで、「誰々が何々と言った」というような知識を得るのが哲学ではないのだ。

(ほらふき男爵)

『ちぐはぐな身体』

(85)

『道徳と宗教の二源泉』 (10)

社会倫理やモラルの低下が叫ばれて久しいが、ベルグソン哲学は今日の社会において、明日をより良く生きるための指針になり得る。無論、彼の思想が絶対的に正しいものだとはいちも思っていないが、共感を覚える部分があるのも確か。小難しい古代哲学もいいが、本書で社会哲学の一片に触れてみるのもいいのではないだろうか。

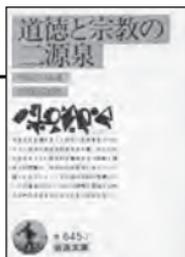
(二都)

『ブチ哲学』 (125)

ちよつとだけ深く考えてみる―それがブチ哲学。感じたままに生きることは大切、でもそれだけでは見えないこともある。ちよつとだけ深く考えてみることで、今まで気付かなかった小さな真実が見えてくる。哲学って堅苦しくてなんか苦手……そんな人が多いと思います。でもこのブチ哲学は、かわいいイラストで、なるほど納得！な、まさに「ブチ」哲学を教えてください。ちよつと深く考えてみるだけで気づくこと。気軽な気持ちで、誰でも簡単に読める哲学書です。

(YKM)

社会哲学の一片



ベルグソン著
岩波文庫
© 岩波書店
903円

ちよつとだけ深く考えてみる



佐藤雅彦著
中公文庫
© 中央公論新社
680円

文教養 文化

ワコオ
150
文庫



松浦武四郎著
平凡社ライブラリー
©平凡社
1365円

へ〜。生前に出版出来なかったんだ。
なんでだろう。気になる

高校で日本史を選択した人は、近代以前に、アイヌと日本人が接触していた事は知っているだろう。しかし、詳しくは知らないと思う。それを教えてくれる本は多いが、分かるのは無味乾燥な事実だけで、切って血が出るような事は、分らない。それを満たしてくれるのが、この本である。著者は、江戸後期に日本中を行脚し、その経験を買われ、幕府の蝦夷地のお役目を仰せつかるも、日本人による残虐行為を日記に書き、目をつけられ、それを辞し、明治に入り、また蝦夷地のお役目を仰せつかるも、やはり辞し、文筆活動に入った人物である。日記と同時期に書かれたものだが、それよりも詳細に書かれていたため、出版を差し止められた本である。

(ほらふき男爵)

『アイヌ人物誌』(2)

『アイヌの碑』(3)

アイヌについて、何か知ってる？
殆ど知らないか。じゃあ読んでみて



萱野茂著
朝日文庫
©朝日新聞出版
483円

テレビや新聞で、海外の紛争について報道される事が結構ある。原因の一つに、民族の問題がある。それを聞いても、無関係だと思ふ日本人は、多い。しかし、日本にも、民族問題があるのだ。アイヌと沖縄だ。この本は、そんなアイヌの一人であり、アイヌ初の参議院議員になった人の前半生を綴った、自叙伝だ。アイヌの近代史を扱った本は、多い。しかし、分かるのは事実だけである。この本は、あるアイヌの人生を追体験する事が出来、どのような生活を、どのような気持ちで、送ってきたかが分かる。差別、苦勞、憧れの先生との出会い、資料館開館。北海道の食べ物、確かに美味い。しかし、

その根底に何が
あるのかを知る
のは、大切なこ
とだ。

(ほらふき男爵)

『赤塚不二夫対談集 これでいいのだ。』(7)

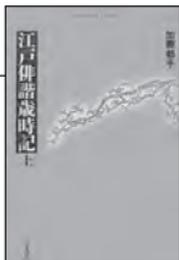
そうでしたか、あなたの人生は。
僕もそう言えるように、生きます



赤塚不二夫著
MF文庫ダ・ヴィンチ
©メディアファクトリー
620円

戻って来なかった。待っていたのに。本当に残念だ。彼の訃報を聞いた時、こんな事を思った。人生が、ギャグ漫画のような人だった。ここまで来てなんだが、彼の漫画を読んだ事はない。テレビに時々出る変なおじさん、という印象しかない。「これでいいのだ」ろうか。この本は、ギャグ漫画の天才、赤塚不二夫と七人の天才の対談を納めている。タモリ、柳美里、立川談志、北野武、ダニエル・カール、荒木経惟、松本人志。『変なおじさん』は、彼らの問いかけに、真剣に答えたり、茶化していたりして、読んでいて飽きが来ない。「これでいいのだ。」こんな境地に行きたいものだ。

(ほらふき男爵)



加藤郁乎著
平凡社ライブラリー
© 平凡社
各 1680 円

あれは何時の言葉だっけ？

説明はほとんど不要。俳句に必要な季語をまとめた本です。文章を書くときにちよつとした工夫がしたいな、という時などにもオススメです。こんな語句がこの季節とは、なんてのもいくつかありますよ。それぞれの語句に詳しい解説がつき、辞書としても便利な本です。



『江戸俳諧歳時記』 上・下 (26)



江口一久著
福音館文庫
© 福音館書店
840 円

そうだね。日本ではあんまり見んわ。 え？この本が!? いや～、やっと見つけた

あなたは、アフリカの文芸に触れた事はあるだろうか。あると言う人は、ごく少数だろう。それが民話となつたら、もつと少ないだろう。民話に触れるには、現地に行かなければならない。しかし、いまアフリカのどこかに旅行しても、なかなか難しい。語りつがれている可能性が低いからだ。ならば、どうすれば良いのか。この本には、アフリカの七つの民族の民話が収められている。中には、本からの翻訳もあり、語りの味わいが失われているものもあるが、物語として十分楽しめる。また、訳者のほとんどは文化人類学者であり、体験談や民族の暮らしぶりを書いたエッセイが付されていて、アフリカの文化を知る事が出来る。和光大学は、アジアに関心のある人が多いが、アフリカにも目を向けて欲しい。

(ほらふき男爵)

『語りつく人びと・アフリカの民話』 (33)

『歡喜する円空』 (37)

いや～、たくさん彫りましたね。
でもなんでですか？



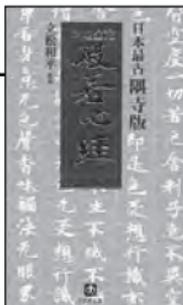
梅原猛著
新潮文庫 ©
新潮社
820 円

○九年の展覧会の入場者数の一位は、阿修羅展ではないだろうか。私は、行かなかった。心を打たれる可能性が低かったからだ。では、私が心打たれる仏像は、円空作のものである。彼は、江戸初期に全国を行脚し、十三万体の神仏像を彫り上げた、造仏聖である。そんな円空について書かれているのが、この本である。著者は、日本文化について独自の説を展開してきた、日本を代表する哲学者である。今回も、今まで言われてきた先人たちの説を批判し、彼独自の説を展開させている。特に今回は、円空同様「まつばり子」だった事もあり、強い論調で書かれている。先人の説が書かれているから、入門書としては十分すぎるくらいだ。また、円空ファン、梅原ファン、もちろん楽しめる本だ。

(ほらふき男爵)

『紺地金泥般若心経』 (51)

これが……日本最古のお経!?



立松和平著
小学館文庫 ©
小学館
670 円

仏の教えの核心「般若経」のエッセンスを二六二文字に集約した「般若心経」を知っていますか？ シンプルで強力なパワーで一三〇〇年の歴史を持つベストセラーです。この本は「般若経」の原型となった日本最古の経、『隅寺般若心経』です。このお経は西遊記のモデルになった玄奘三蔵法師が中国に伝えたと言われています。「是諸法空相」など見ても意味のわからないものが多くありますが、きちんと説明が書かれているので読みやすくなっています。全部は読まなくても、覗くだけでもおもしろいですよ。

(彪)



紅会編
© 青幻舎
各 1260 円

緻密にして繊細。 歴史と伝統の織技

優美で緻密。それでいて艶やかな日本刺繍はいつまで見ても飽きることはありません。長い年月をかけて積み上げてきた伝統の織技は、称賛せずにはいられないものです。一度じっくりと眺めてみてはいかががでしょうか。但し、そのさいには目薬をさすことをお勧めいたします。

(無記名希望)

『刺繍図案に見る 古典装飾のすべて』

1・2 (58)



ジェイムズ・ジョージ・
フレイザー著
ちくま学芸文庫
© 筑摩書房
各 1575 円

あのS先生が推薦した！

尊敬する人が言った。
「この本は面白いから読んでごらん。この本は参考になるから読んでごらんさい。この本はぜひ読むべきだよ。」
そんな風に入ったなら、読んでみたいと思うじゃない！読もうと思うじゃない！そんなわけで、正直中身は僕も全く知りません。でも、僕は薦める。あの人が面白いと薦めるから、僕も推薦する。この本は面白いから読んでみませんか！僕も一緒に読むからさ！いや、ホント中身の想像付きません。これ小説？

(九代目)

『初版金枝篇』 上・下 (66)

『セックスレスキュー』(72)

タイトルだけで決めちゃうの？もったいないな。
読んだら、視野が広がるかもしれないのに



大橋希著
新潮文庫
© 新潮社
500円

タイトルがテーマを表している。しかし、セックスという言葉は、人によって、受け取り方が二分される難しいものだ。否定的にとらえている方、勇気を出して、手にとってみて欲しい。テーマは、セックスレスである。結婚前はしていたのに、結婚するとしなくなる。それが原因で、うつや不眠になってしまう人妻がいる。それを救おうとしているのが、性の奉仕隊「せい」である。主催者は、漫画家横村さとの夫にして、一時期本学非常勤講師を勤めていた、キム・ミヨンガンという性人類学者である。彼らは、性交渉によって、彼女たちを救おうとしているのだ。それで救えるのか。セックスレス、

セックスとは何か。考えながら、読んで欲しい。
(ほらふき男爵)

『地図の想像力(増補版)』(87)

古今東西の歴史を地図の上から見つめる



若林幹夫著
河出文庫
© 河出書房新社
998円

地図は何を表すのか？ 世界？ 国？ 社会？ 私たちが実際に眼にすることは難しい、世界のイメージを、地図は私たちに教えてくれます。ですがそこに描かれているのは「真実」ではなく、「想像力」によるものなのです。地図があつて、社会ができるのか。社会があつて、地図ができるのか。古今東西の私たちの歴史を、地図の上から見つめる一冊です。想像によって人間が世界を構築する。と、いったことに興味がある人にお勧めしたいです。

(紙皿)



秋道智彌著
光文社文庫
© 光文社
520 円

え？オーストラリア、ニュージーランドへ行くの？ちょっと待った！

和光大学は、アジアが強いと言われるそうだが。しかし、日本とオーストラリアの間にある、南太平洋の島々に強い大学、というのは、あまり聞かない。アジアに負けないほどの特色ある文化なのに、それを教えてくれる本は、他地域に比べ、少ない。そんな数少ない貴重な本が本書である。対象となる地域は、ニュージーランド、ニュージーランド、イースター島、ハワイ諸島を頂点とする四角形の内部である。この本に載っている習慣や風習が、全て今現在でも行われている訳ではないが、意外と残っている。この本を読み、南太平洋の島々へ行って欲しい。

(ほらふき男爵)

『ハワイ・南太平洋の謎』(17)



パオロ・マツァリーノ著
ちくま文庫
© 筑摩書房
798 円

社会のあれこれを考えた

社会学という学問を問い直すような本です。別の言い方で言うなら、社会学の基にあるものを皮肉って書いた本です。それ故に固いイメージさえもぶっ壊しています。アンケートや統計に踊らされた人々についても色々書いてあります。そんな僕は社会学も反社会学も好きです。僕にとって両方の目から見る社会も悪くないと思える本だと感じたからです。

(ドラ息子)

『反社会学講座』(18)

『ぼくたち、Hを勉強しています』 (130)

さあ、勇気を出して、読もう！恥ずかし
くなんかないよ！そして、勉強しよう！



鹿島茂、井上章一著
朝日文庫
©朝日新聞出版
483頁

鹿島は十九世紀フランス文学、井上は建築史・意匠論を専門とする学者である。しかし、鹿島には、『オール・アバウト・セックス』、井上には、『パンツが見える。』という著書があり、「Hを勉強している」のだ。そんな二人が、「猥談」ではなく、「性談」に挑んだのが、この本である。話題は、パンツ、モテる、誘惑、Hをやる場所後半には、「鉄道教授」、原武史も乱入し、おじさん三人が性の話をしている光景は、ほほえましく、うらやましい。性の文化史に近付かなかった人も、*“粋な人”*も楽しめる本である。あなたも「Hを勉強して」みない？

(ほらふき男爵)

『マクルーハン』 (134)

ついでに「広告文化論」の授業を取って
みるのは？



W・テレンス・ゴードン著
ちくま文庫
©筑摩書房
1050頁

マクルーハンは、メッセージをそのまま文や文字に置き換えることはしません。というのは、ずっと同じやり方でメッセージを伝えることが好きではなかったのです。そのためか文も細々に書いたり、イラストを加えたり、字体を変えたり、図表を使ったりしています。本学の浅見先生の「メディア論」という授業をとる予定の人は特に読んでみてください。余談ですが、この本の訳者である宮澤淳一さんは特別講師として「メディア論」の授業に来たことがあります。

(ドラ息子)



境野勝悟著
知的生き方文庫
© 三笠書房
560円

知ることを知ればいい

孔子に荀子に孟子に老子、それから荘子！とかく色々偉大な言葉を残した偉大な人がいるけれど？まずは何も知らないままでいい。ばらっとめくってごらんさないな。分からないこと、眉間にしわ寄ることもある。でも、中には胸にすくとんと落ちてくる言葉だつてある。なるほどね、そうだよねつてくすりと笑う言葉もきつとある。知識なんて気になった人が調べればいい。言葉の表面しか見えなくてもいい。ほっとできればそれでいいじゃない。

(九代目)

『老子・荘子の言葉 100選』 (153)



加藤周一著
岩波現代文庫
© 岩波書店
1050円

20世紀最高峰の知性が最後に語った言葉

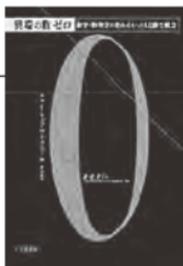
惜しまれつつも亡くなられた評論家・加藤周一氏。その偉大な知性への敬意と哀惜を込めて本書を推す。

(二都)

『私にとっての20世紀』 (155)

数学

ワ
コ
オ
150
文庫



チャールズ・サイフェ著
ハヤカワ文庫
© 早川書房
903 円

「0」って、なんだろう？

「ゼロ」という数字はもともと在りませんでした。理由を簡単にいうなら、ものを数える時や経っていく時間を数える時など、普通の生活で何が有るかを考える上で必要がなかったからなのです。また「ゼロ」が「無」や「空虚」という意味をもつことから嫌われていたということもあるそうです。ゼロが在る前から、現在に至るまでの話が章で分けて書いてあります。後半辺りからは数ⅢCを理解すると分かりやすいと思います。

(ドラ息子)

『異端の数ゼロ』(17)

『数のコスモロジー』 (32)

数学を問い進めたらこうなった



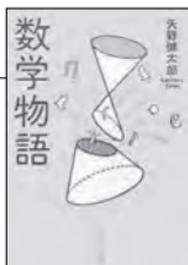
齋藤正彦著
ちくま学芸文庫
© 筑摩書房
1155 円

「数学」という学問を言語という別な観点から考えるような本です。数学のような内容、でも言語のような話です。「日本語と論理」というコラムがあるので、本学の天野先生の授業を受講している人にお勧めします。

(ドラ息子)

『数学物語』 (69)

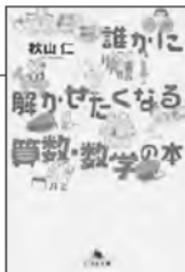
数学君の物語が今始まる !!



矢野健太郎著
角川ソフィア文庫
© 角川学芸出版
460 円

人は「数」という概念を知ってから、数を数える時に手を使うようになった。古代エジプトやバビロニアでより発展した数学を使って、建築に役立てるようなことをした。このような、数の発展した歴史を書いた本です。『異端の数ゼロ』と合わせて読むのをオススメします。

(ドラ息子)



秋山仁著
幻冬舎文庫
© 幻冬舎
600 円

数学を使ってクイズです

「誰かに解かせたくなる 算数・数学の本」(81)

日常にあり得る事柄を算数や数学で考えるという本である。中には数式を使わない話もあり、「基石置きゲーム」などは分かりやすい算数の考え方である。個人的には一一一頁からの「偶然の出会い」の部分で、「友達の友達は、みんな友達か？」を数字で実証して見せてくれたのが、なかなか面白くて、オススメ。

(ドラ息子)

●絶版文庫紹介 その1

マニアの基礎「サンリオ SF 文庫」

70年代の終わりに出たサンリオ SF 文庫。最近では復刊・リメイクもされて以前ほどの高値ではなくなりましたが、まだまだ復刊に期待。個人的に出してほしいのは短篇が手に入れにくいサミュエル・R・ディレイニーの『時は準宝石の螺旋のように』や『エンパイアスター』（『プリズマティカ』が復刊すれば言うことないけど）、ペヨトルからも漏れたらしいバロウズの『爆発した切符』、そのほかフランス SF の数々（面白いかどうかも知らないけど）などなど。挙げれば際限なく出てきてしまう。でもスラデックが出たり、カヴァンもディッシュ（『歌の翼に』は出たけど『ダールグレン』は……？）も出たけれど、どれも単行本。文庫化まで希望するのは欲張りだろうか。

(■■■■)

ぶんころむ

ハウツー

ワコオ
150
文庫



阿刀田高著
新潮文庫
©新潮社
620円

戯曲が読めないなら、コレ

シェイクスピア作品のあらすじと解説が、小説家・阿刀田高さんにより、ざっくりと書いてあります。そんなにアバウトでいいの!?と思うほど、シンプルで分かりやすい。シェイクスピア作品を読むのは面倒だけどだいたいの内容は知っておきたいという方から、一度読んだけど忘れてしまったという方の復習にも最適です。シェイクスピア作品の研究書や論文は数あれど、こうして個人的な感想や意見が書かれた本はあまりないです。そうそう、私もそう思ってたんだよ!と共感して嬉しくなることもしばしば。舞台に興味がなくてもシェイクスピアに難しいイメージがあっても楽しく読める一冊です。

(つむじ)

『シェイクスピアを楽しむために』(56)



金森誠也監修
PHP 文庫
© PHP 研究所
560 円

この名作、あなたはどのくらい
知っていますか？

世界の名作……あなたは何か浮かんできませんか？『罪と罰』、『ユリシイズ』、それとも『百年の孤独』。どれも世界中の人々に愛され、多くの人が好んで読んでいるものです。しかし、知らないタイトルや聞いたことのあるけど、読んだことがないというものもあります。この本は五十の名著が作品の当時の時代背景などを織り交ぜながら簡単に紹介されているものです。今までとは違う発見があると思います。知らないものでも、これを読んで興味を持ち、好きな本が増えるかもしれませんよ。

(彪)

『世界の名作50選
教養として知っておきたい』(71)



柗野浩一著
ちくま文庫
© 筑摩書房
609 円

日記が3日も続かない人へ

この本は、短歌をつくってみたいと思った人が、いちばん最初に読むといい本です。と、著者である柗野さんは言っています。しかし、基本ルールもそこそこに「いい部屋みつかつ短歌」コンテストに寄せられた作品から百首とそれに対するほぼ想像であるう解説が書かれています。なので、気軽に短歌を読みたいという方にもオススメ。読んでみると自分も日記感覚で書いてみようかな、という気分になれます。柗野さん本人の短歌が気になった方は、ぜひ、歌集の方もチェックしてみてください。

(つむじ)

『一人で始める短歌入門』(121)

モテる話術

How To Eat To Women
How To Pick Up Girls
1999年刊



デイビッド・コーブランド著
ソフトバンク文庫
© ソフトバンククリエイティブ
998円・945円

これで無理なら読まないで

「こんな簡単な方法があったのか!」「これでモテなきゃ諦めろ」が謳い文句となっている。二冊とも文庫サイズであるが、とにかく分厚い。読む前から挫折しそうなほど重厚だが、一家に一冊に相応しいマニュアル本である。読み方を間違えなければ。本書はテキストの解説並びに実践形式で書かれている。かといって、そのまま行動に移すと火傷すること確実なのでご用心。正しく使うようよろしくお願い申し上げます。

(真田隼人)

『モテる話術』 『モテる技術』

(143) (142)

ぶんこらむ

●絶版文庫紹介 その2

『野菜探検隊世界を歩く』 池部誠著 文春文庫 1995年刊

表紙には、野菜を抱えてにっこり笑う北京の女の子。この本は、今から約14年前に、文藝春秋の文春文庫ビジュアル版シリーズの一冊として、出版されました。著者のあとがきにあるように、元々、同社から出された二冊の本『野菜探検隊世界を歩く』と『野菜探検隊アジア大陸縦横無尽』を要約したのがこれで、前の二冊から専門的記述を除き、より一般向けになっているとか。内容は、タイトルの通り。著者が、今日の日本にある野菜のルーツを辿って、実際にアジア、はたまたヨーロッパまで足をのばした旅の記録、エッセイです。今、私たちに身近な野菜が、何世代も経て日本にやって来た、子々孫々、あるいはそれ以上であることを実感し、人とモノの移動の歴史に感服。写真と現地でのエピソードを交え、キャベツ、ナス、白菜、ジャガイモ他、野菜の奥深さに一歩踏み込める一冊です。(NI)

雑学

ワ
コ
オ
150
文庫



町田健著
©主婦の友社
662円

どんなものにも数え方ってあるんだなあ

ものを数える時に数字の後に付け加える単語を「助数詞」といいます。この「助数詞」ですが日本語には多種多様に存在します。さて、みなさんは正しく使い分けできていますか？例えば、木魚や果物、雲などの数え方は？光や殺気などの目に見えないものは？「そんなもん普通数えんわ！」そんなものにも数え方は存在するのです。意外に知らないもの数え方が分かり易く描かれた一冊です。

(無記名希望)

『絵で見る「もの」の数え方』(25)



植松黎著
講談社 + a 文庫
© 講談社
1260 円

貴方を誘うのはどの花？

数えて三十九種の美しい花々。可憐な装いや華やかな出で立ち、つましやかな姿で挿絵に描かれている草花たちは、驚くべきことにどれも毒という甘くも苦い罠を持ち合わせているのだ。あの香り高く、ぼつてりとした白の花弁の美しいコブシが、狩猟に適した毒を持つことを知ってるか？何週間も刺すような痛みを気が狂うほどに与える続けるキノコを知ってるか？色と香だけでない。その毒までが貴方を誘うのだ。

(九代目)

『カラー図説毒草の誘惑』 (35)



岡田斗司夫著
ちくまプリマー新書
© 筑摩書房
798 円

あなたはどんなタイプの支配者!?

アニメの設定でよくあった「世界征服」。しかし、現在はリアリティーがないのであまり使われなくなってきた。そこで、「世界征服」とは何か、あなたが支配者になったら、漫画・アニメで言うどんなキャラに近いかをこの本で調べてみては？論理的かつユーモラスに弁じたてた内容となっています。切り口は鋭いですが、語り口が上手いのでとても読みやすいと思います。最終章では、「そうくるか！」と思うか「んなわきゃねえだろ」と感じるかはあなた次第。あなたはどうか感じますか？

(彪)

『「世界征服」は可能か？』 (70)

『ナポリタン』 (105)



上野玲著
小学館文庫
©小学館
600円

え？ ナポリタンの本!?
あるんだ。へ～

スパゲッティと聞いたら、何を思い浮かべるだろうか。ミートソース、カルボナーラ、ペペロンチーノ。これらも確かに美味しいのだが、やはりナポリタンだろう。そんなナポリタンについて書いた『奇書』が、この本。歴史、ケチャップ、日本各地のナポリタン、世界のナポリタンらしき料理、コンピニのナポリタンの比較、作り方にナポリタン紀行。ひとつの料理について、一六四ページも書いている本は、少ないだろう。ケチャップの甘酸っぱさ。ピーマンの苦味。マッシュルームと玉ねぎの歯応え。スパゲッティのくたくた感。あゝ、食いたくなってきた。

(ほらふき男爵)

『日本の商業デザイン』 (109)



©青幻舎
1260円

独特の感性と個性でもってうったえかけ
てくる広告の数々

シニールというかセンスが良すぎて何の広告か分からない。そんなデザイン画見たいと思いませんか？うーんなるほどと思うデザイン画見たくはありませんか？何故か分からないが頭に残る広告、目に焼き付いて離れない広告。デザインであふれた現在の日常もいいですが、少うし時代を遡って当時のデザインで溢れた日常を目にしてみませんか？

(無記名希望)



張鏡著
角川ソフィア文庫
©角川学芸出版
940円

文学、美術にみる美人の歴史

『美女とはなにか』 (19)

サブタイトルの「日中美人の文化史」のほうが、内容をよくあらわしている気がします。中国と日本の図画、古典、小説などからいわゆる、美人、を表現したもの（文章だったら記述の一部）を取り上げ、その違いなどを比較するといった内容です。比較文化に興味のある人はもちろん、いろいろな文献や物語の一部をかいつまんで読めるのがおもしろい。そういうのが好きな人にもおすすめです。

(NI)

ぶんこらむ

●絶版文庫紹介 その3

『人間関係がこじれかけたとき読む哲学の本』

梅香彰著 講談社+α文庫 2004年刊

「なぜあの人を「嫌な奴」だと思うのか」「なぜ、人とわかり合えないのか」。こんな疑問をぼやんと抱いた事はあるだろうか。この本は、在野の哲学者がそれらの疑問に、答える形で書かれている。人間は、一人では生きられない。だから、「自分には関係ない」とは言えないはずだ。貴重な、「猶予期間」に、人間関係を見つめ直してみても、どうだろう。（ほらふき男爵）

ノンフィクション

ワコオ
150
文庫



スアド著
© ヴィレッジブックス
756円

愛し合うことは、女であることは、
そんなにも罪ですか？

今なお平然と横行している理不尽な常識や習慣。その一つである「名譽の殺人」。その犠牲者である著者は、義理の兄に生きながら火あぶりにされた。中には分からない、外と接して初めて疑問に思う常識や習慣。命とは名譽より軽いのか？男女で命の重さが変わるのか？自分たちは全く違う想像を超えた価値観と文化。私たちに何かできることがあるとしたら、まず知ることだろう。そして、知った上で尋ねたい。恋をして、抱き合うことはそんなに罪なのだろうか……？

(無記名希望)

『生きながら火に焼かれて』(15)



日本戦没学生記念会編
岩波文庫
© 岩波書店
903円

日本人が受け継いでいかなければ ならない学徒兵の肉声

第二次大戦中の日本の学徒兵たちの手記を集めた書。望まぬ戦いを強いられながらも、知性と希望を持ち続けた彼ら。その肉声を聞き、戦争や社会に対する姿勢を見直すことも現代を生きる我々にとって不可欠なことなのではないか、と思う。酷薄で凄惨な過去を忘れえぬために、そして戦没学徒兵の未来を継ぐために、本書を推す。

(二都)

『きけ わだつみのこえ(新版)』(38)



川端要寿著
小学館文庫
© 小学館
630円

朝青龍よりも、破天荒な横綱?! 今いたら、面白いかも

二〇一〇年二月に引退した元横綱朝青龍。現役時代、彼はよく「横綱の品格がない」と言われた。では、品格とはどのようなものか、と問われ、答えられる人は、少ないだろう。この本を讀めば、それが分かるかもしれない。この本は、男女ノ川(ミナノガワ)という、明治から昭和を生きた、少々変わった横綱を扱っている。自転車で場所入り。早稲田大学に入学。一代年寄になるも、すぐに廃業。衆院選に出馬。様々な職を転々とする。最後は、東京都下の野鳥料理屋の下足番となり、果てた。彼に、品格はあったのか。横綱に、品格は必要なのか。

(ほらふき男爵)

『下足番になった横綱』(48)

『知識人99人の死に方』(86)

あなたはどんな死に方を選びますか？

あなたは「死」について考えたことがありませんか？誰もが等しくひとりひとりで迎えるモノ……、淡々と穏やかに、あるいは壮絶に、もがき苦しみながら。この本は戦後に死んだ九十九人の「考える」ことを生業にした人達の「死」のドキュメントです。手塚治虫・有吉佐和子・永井荷風・波澤龍彦・森茉莉・三島由紀夫・寺山修司・今西錦司……、この中で知ってる名前があると思います。その人達の「死」についての思いを読んでみてはいかがでしょう。「死」の逆の「生」についても考えられると思います。

(彪)

『^{はがね}鋼の女^{ひと}最後の替女^{ごせ}・小林ハル』(114)

ハルさん、勇気をありがとう

この本は、小林ハルさんというおばあさんの人生を綴ったノンフィクションである。私は、「さん」付けで呼べるほど親しくないし、まずこの本に触れるまで、この人を知らなかった。しかし、著者がそう呼ぶから、影響されて、言ってしまうのだ。ハルさんは、人間国宝に選ばれた替女である。替女は、三味線を背負いながら、全国を歩き、唄う、盲目の旅芸人だ。歴史に「もし」はご法度だが、盲目ではなかったら、新潟に生まれていなかったら、替女にさせられなかったら。ハルさんは、そんな境遇を受け入れ、百年以上生きた。私は、悩んでいたが、彼女に比べたら、大したことないと思ひ、悩むのをやめた。

(ほらふき男爵)



荒俣宏著
角川ソフィア文庫
© 角川学芸出版
700円



下重暁子著
集英社文庫
© 集英社
650円

エッセイ

ワコオ
150
文庫



銀色夏生著
角川文庫
©角川書店
580円

住みたい家がないなら作れば？

詩人銀色夏生が本人設計で家を建てました。家族と自分と犬のために、小さな思いやりとお遊びの混ざった柔らかな家。壁に埋め込まれたきれいな小石の並び。階段の手すりのとぼけた表情。呼吸をするテーブルの木の手触り。ぽっかりと棚をてらす白い丸いライト。まるごとひとつの詩になっていそうな、写真いっばい言葉すこしの静かな本。

(九代目)

『家ができました』(14)

『今、何してゐる？』 (18)



角田光代著
朝日文庫
©朝日新聞出版
525円

自分の考えていることはだいたい
標準である、と思っていた

恋愛と旅と本のエッセイ。若いむすめだったころは都会には「悪い男」という種族がいると信じていた。シェイクスピアに「かくたさん、きみね、マジで卑しいよ」とききおろされた気分になる。旅をしているときは友達や恋人に電話をかけないように心がける。「ごくふつうど真ん中女」の自負をもって連載されていた、普通だと思っていた生活、恋愛観や本の感想。著者が言うように、自分の普通の生活と照らし合わせてみると面白いです。

(A M)

『ウルトラマンの東京』 (24)



実相寺昭雄著
ちくま文庫
©筑摩書房
819円

怪獣たちの青春

子供たちの永遠のヒーローを作り上げた監督の一人、実相寺昭雄。当時の思い出話を中心にウルトラマン制作の裏話まで、一度でもウルトラマンを見ていると思わずにやにやしてしまいう文章の連続です。ウルトラマンがただ単に正義の味方で終わらなかつた作品にした人の中に間違いなく実相寺監督。挿絵も優しいタッチでのんびりとしています。

(■ ■ ■)



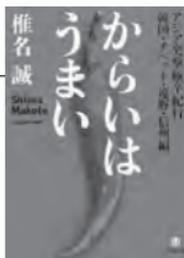
三浦じゅん著
角川文庫
© 角川書店
460円

親孝行プレイは諸君が親に対して行う奉仕プレイなのだとことを忘れてはならない

妻を活用し、孫を活用し、友を活用し、真実を隠し、「偽善」で徹底的に親を喜ばせる。そんな親孝行の方法なんて、本当にアリ？一度は親孝行を試みてみただけで、喜ばれずに挫折してしまった……。最近、親の背中が小さく見えた。けど、今更親孝行なんて恥ずかしいし、どうすればいいかわからない。そんなあなたに贈る「親孝行プレイ」。現代ではうまくいかない、従来の親孝行スタイルに警鐘を鳴らす親コラー（親孝行実践者の意）みうらじゅんの提言する、新しい親孝行のスタイル「親孝行プレイ」とは？

(A M)

『親孝行プレイ』(28)



椎名誠著
小学館文庫
© 小学館
730円

あ〜、汗が止まらない！
箸も止まらないよ〜！

あなたは、辛い食べ物が好きだろうか。私は、好きだ。だからと言って、何でもかんでも、唐辛子を振り掛けることはない。表紙に唐辛子がドンと載っているが、辛いのが好きな人も、嫌いな人も楽しめる本だ。旅人シーナが向かうは、韓国、チベット、遠野に信州。もちろん辛い料理も出るのだが、辛い物好きだから、どうしても辛い料理に目が行ってしまう。キムチ、火鍋、わさびらーめんに辛味大根そば。読んでいると、食べたくなるから、特に夜は読まない方がよい。紀行文だけでも十分面白いのだが、「辛味食文化初級入門塾」なる部分があり、お勉強も出来るというお得な本だ。書いていたら、辛いものが食べたくなった。

(ほらふき男爵)

『からいはうまい』(36)

『恐怖の報酬』日記 (42)

身体に悪い大人の修学旅行



恩田陸著
講談社文庫
© 講談社
600円

大好きなビールを飲むために大嫌いな飛行機に乗り、はるか遠いイギリス・アイルランドまで旅立つ紀行エッセイ。行く先々の土地への雑感についても書かれているのだが、一番ページを割いているのは、飛行機への恐怖と酒に関すること。想像力が豊かだからこそ飛行機を恐れ、豊かな想像力と飲酒で現実逃避を試みる、日本からイギリス到着までの生きた心地のしない時間。日本で酒を飲み、機内で酒を飲み、イギリスに着いて酒を飲み、夜はバブに行つて酒を飲み、後半は日本各地のビール会社まで行つてビールを飲む。その合間に恩田陸の創作活動の一端が見える贅沢な一冊。

(A M)

『きょうも、いいネコに出会えた』 (43)

ねこ好き必見!!
かわいいねこが待ってるよ



岩合光昭著
新潮文庫
© 新潮社
660円

ねこ好き集まれ!! ファンにはたまらないネコの写真集? 和みます(笑)。今回は金沢、鎌倉、名古屋など、由緒正しい十一の街並みで、はい☆チーズ。じやれるネコなどかわいい仕種がたっぷり楽しめます。そして、ネコの写真を撮るのは自由気ままな日本のねこ達を追いかけ、全国を回る写真家岩合光昭です。全国でも高い評価を受けている動物写真家です。写真集には『海からの手紙』などがあります。この本には岩合光昭への100の質問もあり、文章はもちろん写真のみでも十分に楽しめます。

(彫)



柘野浩一著
集英社文庫
© 集英社
400円

肯定を必要とする君という 平気平気が口ぐせになる

タイトルの「い」が無いのは決してミスではない。中途半端に投げ出された言葉が、余計に淋しさを感じさせる。歌人・柘野浩一が書く、ある日ある時ある瞬間の記憶と記録。三十五編の歌と共にポツポツと語られる柘野さんの日常は、まるで友人の話の聞くような親近感と過ぎ去っていった時間に対する切なさがじわじわと胸に染みこんでくる。オオキトモユキによって毎ページに書き込まれたペンギンの絵を追ってみるのも楽しい。

「肯定を必要とする君という平気平気が口ぐせになる」

(つむじ)

『淋しいのはお前だけじゃな』(54)



池波正太郎著
朝日文庫
© 朝日新聞出版
798円

人生様々、人さまざま

池波正太郎のエッセイ集、第五集目『チキンライスと旅の空』とはまったく感じの違うエッセイ集です。著者が、小説を書く時の話、十代からよく見ていた、映画の話、脚本・演出を務めた、新国劇にまつわる話。わずかに二ページほどしかないエッセイもあり、当時亡くなった有名人や、知人のことが書かれている部分は、何気なく書かれている分だけ、重さが伝わります。芝居と映画と人生と、の人生、の部分は、この一冊を総括する意味づけられたような気がします。

(NI)

『芝居と映画と人生と』(62)

『新編百花譜百選』 (68)



木下奎太郎著
岩波文庫
© 岩波書店
1575 円

淡麗な色彩に彩られた百編の譜

花の持つ美しさというのは美術品のそれに近い。こころ。有機物なものにもかかわらず、無機的な美しさを湛えているというかそんな感じだ。もちろん花なんてすぐに散ってしまうが、そういう生とか死とか超えた永遠性を感じさせる、個人的な感想だが。とにもかくにも詩人・木下奎太郎著のこの文庫は、そんな花々を飾り気なく、かつ、魅力的に綴った写生集だ。その素朴で美しい画は見る者を惹きこむ。つーか惚れる、花に。

(二都)

『ソロモンの指環』 (76)



コンラート・ローレンツ著
ハヤカワ文庫
© 早川書房
777 円

コンラート・ローレンツの
観察日記的なもの

コンラート・ローレンツが動物と行動を共にし、その行動を深く考察した「観察日記」のような本です。たとえば「魚の血」の項目では、「退屈で冷淡な人のことをまるで魚の血のようだ、というが、実は魚は冷淡ではない」という具合で、興味深く、面白い本です。

(ドラ息子)

『たばこの本棚』(77)

たとえ体に悪くとも、他人に迷惑がかかろうとも魅かれてしまう！私達、たばこの虜です



開高健著
ぶんか社文庫
© ぶんか社
680円

たとえ体に悪くとも、他人に迷惑がかかろうとも魅かれてしまう。それがたばこ。多くの読者を魅了する作家たちも例外ではなく、たばこの魔力に魅入られてしまいます。そんな作家たちがえがくタバコのための珠玉の短篇集。水上勉、横光利一、井上ひさし、芥川龍之介といった豪華ラインナップでおおくりします。

(無記名希望)

『だめだこりや』(80)

そうですね。
もう少し頑張ります



いかりや長介著
新潮文庫
© 新潮社
460円

私の好きなドラマに、『踊る大捜査線』がある。続編がなかなか実現しなかった理由の一つとして、和久指導員の不在があげられるだろう。脇役であるが、居ないと寂しい存在だ。それを演じた俳優こそ、いかりや長介である。私は、時々やっていたザ・ドリフターズのスペシャル番組とドラマに出ていたのしか知らない。この本を読んで、もっと早く生まれたかっと思った。ビートルズの日本公演の前座を見たかった。『全員集合』の公開放録に行きたかった。「所詮、タレント本」と馬鹿にせずに、先ず読んで欲しい。何かを得られるだろう。え？こんな紹介の仕方は「だめだこりや」？手厳しいよ、長一(本名)さん。

(ほらふき男爵)



池波正太郎著
朝日文庫
© 朝日新聞出版
735 円

懐かしい味、記憶の旅

『鬼平犯科帳』『剣客商売』などの著者、池波正太郎のエッセイ集の第四集。実際にタイトルと同じエッセイはないのですが、このタイトルが示す通り、食べ物と、著者が旅先で出会ったさまざまなものごとについてのエッセイが集められています。子どものころ縁日で食べた『どんどん焼き』、戦時中のチキンライスの味。ふらりと出掛けた岡山で出会った人々。知らないけれど懐かしい、ノスタルジックな気分になる作品ばかりです。出てくる食べ物は、どれもすごくおいしそう。

(NI)

『チキンライスと旅の空』(84)



ニュー・サイエンティスト
編集部編
ハヤカワ文庫
© 早川書房
798 円

実は密かに知りたいんです！

日常生活の素朴な質問に答えるものです。それらの質問に色々な専門家が色々な見方をして、答えていく形式です。何か、日常の不思議を発見したら何となくこの本を開いてみると良いでしょう。もしかしたら、その疑問の答えが見つかるかもしれないです。

(ドラ息子)

『つかぬことをつかうがいますが...』(91)



高田純次著
河出文庫
© 河出書房新社
578円

実は、すごい本だったり、
じゃなかったり……

高田純次が色々な人の質問に「適當」に答えていく本である。本当にそれ以外に無い。多分、手に取れば気持ちが悪われる事でしょう。まあ、時には「適當」な時も息抜きとして読んでみて下さい。取り敢えず、気分が落ち込んでる人、話を聞いてくれる人が居ない人、神経質になってる人とかにおすすめです。(笑)

(ドラ息子)

『適當教典』(94)



クラフトエヴィング商会
著
ちくま文庫
© 筑摩書房
945円

よく耳にするけれど、一度としてその現物を見たことがないもの。
そんな不思議なものが売っている不思議なお店の話です

よく耳にするけれど、一度としてその現物を見たことがないもの、例えば(どさくさ)。あるいは(左うちわ)。こういったものは何処に行ったら手に入られるのでしょうか？当店にお任せ下さい。サクツとお客様のニーズにお応えいたしましょう。目玉は今流行りのKYと言われる方に重宝する(相槌)大・中・小御用意いたしました。マニユアル本『正しい(相槌)の打ち方』もございます。ぜひ一度当店へ足をお運び下さいませ。

(無記名希望)

『ないもの、あります』(104)

『日本廃線鉄道紀行』(110)

廃線の軌跡をたどって



大倉乾吾著
文春文庫 plus
© 文藝春秋
590 円

日本全国、今はもう使われなくなった鉄道跡を見て回り、著者の撮った写真とともに、その廃線についてのさまざまなことが綴られています。掲載されている写真は、冒頭数ページにカラーがある以外、後は全部白黒。白黒のほうが趣がある気がするのには、色がない分、細部がはつきりしないので、想像の余地があるからでしょうか。単に好みの問題かもしれませんが。事実だけを並べた、その鉄道が廃線になるまでの略歴と、対照的な著者の文章、写真。この本を構成する、これら三つの要素は、廃線のうら寂びしい響きと雰囲気をも、よりいっそう強調しているようです。

(N I)

『庭ができました』(111)

この庭、散策何日かかる？



銀色夏生著
角川文庫 ©
角川書店
700 円

詩人銀色夏生が、今度は庭を作りました。やっぱりどこかにお遊びの埋まった、木と土と石と色の溢れる庭。階段の手すりに巻きつく蔓や、コンクリートが乾かないうちに描かれた笑顔。ぜひともあちこち冒険したくなってきました。ほろほろと降る光たち。さわさわとそよぐ木の葉たち。ちらちらと覗く花たち。どこかに隠れた小さなカエル。本の中じや収まらず、目の前に飛び出てきそうな力ある庭。笑顔と癒しと少しのわくわくが詰まった本。

(九代目)



原田宗典著
角川文庫
© 角川書店
520 円

何て見事にからかわれてしまったのだから。そう思うと笑いが止まらなかった

フランス料理屋でウェイター、製本補助、呑み屋店員、ビル清掃員、エロ本配達など様々なバイトを経験した青春時代。ガソリンスタンドで嫌な上司に仕返しをしたスタンドボーイ。金銭的に大変な状況に身を置くことになり焦ったり、呑み屋のおばさんやエロ本会社の社長に目を覚ましてもらったり、肉まんを延々網にのせるバイトで発狂しそうになったりしています。家族からの自立や、むなしさ、恋の思い出なども書かれた、まさしく苦学生であった原田宗典の若さあふれる青春労働エッセイ。

(A M)

『はたらく青年』 (115)



泉流星著
新潮文庫
© 新潮社
460 円

アスペルガー症候群の「妻」との日常

「僕の妻はエイリアンだ。といっても、緑色もしていないけれど、とがった耳も持っていない。」そんなまえがきから始まる、個性的過ぎる「妻」の話。「夫」は彼女の独特の行動に戸惑う日々を過ごす。じきに分かったのは彼女がアスペルガー症候群だということ。一般的な感覚や価値観から外れた「妻」の言動がそのままに、かつユーモラスに綴られている。「ねえ、妻はどうして妻になったの？」と何度も繰り返されてきた問いに、根気強く、少しおどけて語り出す「夫」とそれを聞いて大喜びする「妻」のエピソードに胸があたたかくなる。

(つむじ)

『僕の妻はエイリアン』 (131)



穂村弘著
集英社文庫
© 集英社
480円

そう、
私は神様になりたくないだけなのだ

自意識が強く、影が薄く、近くで喋っても遠くから聞こえるような声の持ち主は、素敵な自分になるために、自己啓発本にラインを引きます。今ここにいるのは「私のリハーサル」。今は地獄の汁のような味をしたエスプレッソも、素敵レベルの高い本当の自分にはキャラメル味のわい。そんな「私のリハーサル」は、ミック・ジャガーと自分の違いを考え、マネキン着用の洋服を着て、部下の女性にかっこよくなる方法を聞く。素敵な自分になるために……。サラリーマンで歌人、穂村弘の不思議な現実をみるエッセイ。

(A M)

『本当はちがうんだ日記』 (132)



大槻ケンヂ著
角川文庫
© 角川書店
620円

孤独こそすべての青年の心を殺す

大槻ケンヂの、少年期からバンド時代までのエッセイ集。青年期の将来が見えない不安や、女の子と話せなかった高校時代の悲しい妄想。若者のな苦悩と、その日々の中の笑い、大人になってから、見ず知らずの若者におくる言葉などを読めば、青年期の悩める心も軽くなるかもしれませぬ。また、あまりにも赤裸々に自身の嗜好(ウルトラマン、仮面ライダーに「萌え」以上の何かを感じる、等)をさらけだしているサーピス精神にも感服。

(A M)

『我が名は青春のエッセイドラゴン!』 (154)

SF. ファンタジー

ワコオ
150
文庫



リュック・ベッソン著
角川文庫
©角川書店
各 579円

家を守るために宝探し！
さあ、冒険を始めよう！！

十歳の誕生日を迎えたアーサーが家を守るために
行方不明の祖父が隠した宝探し！！屋根裏部
屋に残された秘密のメッセージを解き、体長二
ミリの種族「ミニモイ」に変身！！悪の帝王が
君臨する闇の国に王女セレニアとその弟のベタ
メッシュと困難な旅に……。そこで手に入れる
のは？映画にもなった愛と夢と冒険の詰まった
ファンタジー小説です。テンポのいい話なので
読むのが楽しいと思います。特にアーサーの困
難に立ち向かう姿勢や乗り越え方が見所です。
かっこいいアーサーが勇気をくれます。

(彫)

『アーサーとミニモイの不思議な国』

上・下(1)

『海を失った男』 (22)

スタージョン再評価のきっかけになった記念すべき一冊。でもどちらかというともスタージョン中級者向け。人間に対するなんとも言い難い愛がふんだんにつまった短篇集です。特に『アーゴイ』短篇コンテสต์でグレアム・グリーンに勝った「ピアンカの手」と、表題作が印象に残るだろう。前者は白痴だが美しい手を持った少女に恋する少年の物語、後者は宇宙で死にゆく者の得たものと失ったものについての物語。なお、先日河出文庫で出た『不思議のひと触れ』がスタージョン初級にびつたりなので、そちらも機会があればどうぞ。メロメロです。



シオドア・スタージョン著
河出文庫
© 河出書房新社
924円

『華胥の幽夢』 (31)

十二の国のそれぞれに王、そして王を選び補佐する「麒麟」が存在する。古い中国の世界を思わせる異世界ファンタジー、その短篇集です。タイトルでもある「華胥」以外は、これまでのシリーズのキャラクターたちの後日談が多く、これまでの作品を読んだことのある方にお勧めしたいです。二〇〇一年に刊行された本ですが、シリーズの中では最新刊だったりします。ちなみに、〇八年や〇九年にも短編はいくつか発表されています。

(紙皿)

十二の王と麒麟の異世界物語



小野不由美著
講談社X文庫
© 講談社
683円



田中芳樹著
講談社文庫
© 講談社
各 600～700 円

超人四兄弟による、 起承転結ならぬコメディー

人間離れた超能力を持った竜堂四兄弟。そして彼らの力を狙う謎の存在。そして明らかになる古の四海竜王の伝説とは。常人には出来ないようなアクションシーン、祖父の教えでもある彼らの物事の考え方など、竜堂兄弟についての描き方が一番の見ものでしょう。そんな感じで壮大なスケールのライトノベルっぽい作品ですが、始、続、終、余という何とも言えない名前通り、元々はかなりのコメディ作品だったらしく、作中の掛け合いや、四兄弟が自分たちで作品について語り合う、巻末の竜堂兄弟座談会など、ユーモアがふんだんに練りこまれた作品です。

(紙皿)



前田栄著
前田とも (イラスト)
新書館ウィングス文庫
© 新書館
621～651 円

人・妖怪・半妖がマイペースに、 どこまでも

激情……人の抑えきれない感情を結晶化させる能力を持つ半妖の主人公・凍雨とその父で大妖怪・白夜、そしてこの親子と契約している青年・黄龍の三人が中心のちよつと不思議なストーリー。独特な三人の性格・能力は話のペースとなっているお伽話をより靈妙にしています。のんびりスローな感じに進むのでゆっくりしたい時などに読むのもいいかもしれません。やはり、見所は話の中心にいる三人の性格です。普通には決して当てはまらないもの達が皆、自分のためにマイペースに生きています。

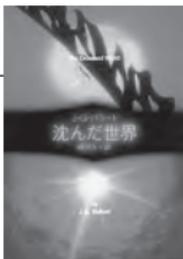
(彫)

『創竜伝』

1～3 (40・90・135)

『結晶物語』

全4巻 (50)



J.G. バラード 著
創元 SF 文庫
© 東京創元社
567 円

水のなかの未来とは

世界は滅びますが何か問題でも？という設定の本はわりと今日の日本では受け入れられている。その先駆的な作家がバラードであると思う。彼は宇宙へと向かうSFに嫌気がさし、内宇宙へのSFを書き続けた。惜しくも二〇〇九年亡くなられてしまったが、SFマガジンでも追悼特集（表紙はバラードの顔写真のアップ！）と、その功績はこれからも輝き続けるだろう。本書は水没した世界を舞台に世界の終末がゆっくりと美しく語られるバラード初期の長篇。



大森望著
創元 SF 文庫
© 東京創元社
1155 円

イキのいい国内SF、揃ってます

無事に出た日本SF年刊傑作選二〇〇八年版。今年もマンガあり、日記あり、短歌あり、年刊傑作選だというのに書き下ろしあり（しかも去年は未発表原稿）、の開けてびっくりお楽しみアンソロジーです。全部読んでもよし、好きなところだけ読んでもよし、この中に絶対一つはお気に入りがあると思います。二〇〇七年度版の『虚構機関』もどうぞ。



『沈んだ世界』 (59)

『超弦領域』 (88)

『月の影 影の海』 上・下 (92)



小野不由美著
講談社文庫
© 講談社
各 560 円

妖魔に襲われ、人に裏切られ全てに絶望して、それでもそれを乗り越えて歩き続ける陽子は最高にカッコイイ女性です

突然現れた長い金の髪をした男はケイキと名乗り、「あなたは私の主、お迎えにまいりました」と陽子連れ去った。着いた場所は地図にない世界。そこで陽子は異形の獣たちから命を狙われるハメに。そして人間もまた陽子を裏切り利用する。孤独と不信で一杯になった陽子は「何故私が!?」「死にたくない」「それだけを胸に必死で歩き続ける。そんな旅路で生涯の友とも呼べる楽俊との出会いが、陽子を孤独から救いあげる。そして物語はクライマックスへ。何故命を狙われるのか? 真相が明らかになった時陽子は……。本書は陽子の心の成長が見どころです。

(無記名希望)

『天国の扉は二つある』 (98)
『燃える記憶』 (141)



小林フユヒ著
コバルト文庫
© 集英社
各 520 円

生き物に取りつく悪魔、
騒がしく祓います。

悪魔祓い、人のもつ負の感情からなる悪魔を滅ぼすこと。退魔士ルスハの悪魔祓いの相棒は幼なじみでくされ縁の司教ラグ。ラグは超絶美形で桁外れな天才だが、性格最凶で鬼畜……。そんなラグのせいでルスハはいつもボロボロ。笑いあり、友情あり?の爆走アクションファンタジー。話の進みが短編集みたいな感じになっているので、一話ごとに完結しています。それでも全編を通してみれば一つの事件に繋がっていることがわかるので面白いです。短編でも読めるのでとても読みやすいし、読んで、わくわくします。

(産)



もう誰も傷ついたりしないで毎日昼寝
だけしてればいい世界にしたいなあ…



鏡貴也著
富士見ファンタジア文庫
© 富士見書房
588～609円

三度の飯より寝るのが好き！夢は昼寝王国の王様♥そんな主人公ライナ・リユートと何様、俺様、カリスマ王様なシオン・アスタール、だんごがこの世の全てだんご命!!な超絶美人な女剣士フェリス・エリスの魔法ありラブあり友情ありシリウスでは救いが無い冒険魔法ファンタジー(?)個性のすぎて魅力的なキャラ多数登場。厭きないストーリー展開と読みやすい文章が特徴です。特に上記の三人の漫才は必見です。

(無記名希望)

珠晶 12 歳、
王になるため旅立つ



小野不由美著
講談社X文庫
© 講談社
693円

あなたなら命がけて王になりますか？王がいない時、王朝が倒れる時は妖魔が跋扈し、国が荒れる世界。そんな世界で長年王の不在から国が荒れている恭国。そこに生まれた少女、珠晶はどんだん荒廃していく祖国を憂い旅立つ決意をする。王さえいれば国も落ち着く。しかし、それは命をかけた過酷なものだった。史上最年少十二歳の女王の命をかけた旅物語。最初はただのワガママ娘かと思いきやその辺の大人より大人。読了後の自己嫌悪感と爽快感は他では味わえないであろう一品。

(無記名希望)



加納朋子著
文春文庫
© 文藝春秋
530円

明日も、明後日も、その先もずっと。
何ひとつ変わらない、幸福な日々が続く。

こぢんまりと、地味に、普通に生きていたのに、たまに人生では大変なことがおこったりもする。普通でいい人の主人公たちが、理不尽といえは理不尽な出来事に前向きに取り組んでいく、温かい雰囲気短編集。人と人との絆を書いた、スタンダードない話が多いので、安心して読めます。「バルタン最期の日」では主人公がザリガニという設定ですが、人間よりかっこいい、ハードボイルドザリガニに心を打たれること間違いない。疲れていて、心を潤したい人におすすめしたい一冊。

(A M)

『モノレールねこ』 (144)



池田あきこ著
中公文庫
© 中央公論新社
620円

わちふいーるどへの行き方
→本を開くだけ

動物たちが二本足で立って歩く世界わちふいーるど。そこではふわふわ毛皮のダヤンが暮らしています。お祭りやイベントで一年中大忙しに笑ってる、そんな幸せ一杯の優しい世界。桜の木に花が開くときを聞いて、みんなでお花見したり。迷子になった影を探して泣いたり。案内役のイワシをつまみぐいしたり。魔女をパーティーに招き忘れて怒られたり。お日さまに夕陽の金色をわけてもらったり。素敵な一年、どうぞあなたも覗いてください。

(九代目)

『12の月の物語 わちふいーるど』 (156)

ミステリ！ ホラー！

ワ
コ
オ
150
文庫



神永学著
角川文庫
©角川書店
579～619円

『赤い左眼』は真実を見つめる千里眼

学内で幽霊騒動に巻き込まれた友人について相談するため、晴香は、不思議な力を持つ男がいるという「映画同好会」を訪ねた。しかしそこで彼女を出迎えたのは、ひどい寝癖と眠そうな目をした、スカした青年。思い切って相談を持ちかける晴香だったが!? 女子大生監禁殺人事件、自殺偽装殺人……次々と起こる怪事件に、死者の魂を見ることができると名探偵・斎藤八雲が挑む、ハイスピード・スピリチュアル・ミステリー、心霊探偵八雲シリーズ。八雲が解決していく事件もスリリングで読みごたえがありますが、事件を通して変化する晴香と八雲の関係もこのシリーズの醍醐味。ミステリーものは苦手……という人にもぜひ読んでほしい作品です。

(YKM)

『心霊探偵八雲シリーズ』

1～3

(4・79・145)



大沢在昌著
講談社文庫
© 講談社
560円

不良親子のハードなパロディ

かつては「行商人」やら「秘密諜報員」やらわけのわからない仕事をやっていて、今は知り合いのカフェの二階で「私立探偵（プライベート・アイ）」をやっている不良中年、冴木涼介。そんな彼をダメ親父と呼び、適度な不良の主人公、冴木隆。高校生ながら父親の仕事をバイトとして手伝う、アルバイト・探偵（アイ）である彼の視点から語られる、作者いわくパロディっぽいハードボイルド小説。シリーズ第一巻は短編集になっており、このシリーズの感触が手軽にわかることでしょう。

（紙皿）



若竹七海ほか著
創元推理文庫
© 東京創元社
777円

五十円玉五十円玉五十円玉…

かつて実際にいたと言われる、謎の両替男。問題は二つ。なぜ彼は毎週、本屋で五十円玉を千円札に両替するのか？そして、その五十円玉二十枚はどのような経緯で彼の手元に貯まっていたのか？実際に起きた謎の出来事に対し、様々な人たちが答えを出そうとした競作アンソロジー。これを読めば、あなたも謎の五十円玉男が頭にちらついて離れなくなることでしょう。……自分は、五十円玉が手に入るたびに昔の大判かどうか調べる癖ができました。昭和三十三年発行のが特に希少だそうです。

（紙皿）

『アルバイト探偵』(10)

『競作五十円玉二十枚の謎』(41)

『今夜は眠れない』 (52)

『シャイニング』 上・下 (64)

突然の大金に埋もれた真実とは？



宮部みゆき著
角川文庫
©角川書店
540円

父さんと母さん、そして「僕」。そんなありふれた一家の日常が、一変する出来事が起きる。
『放浪の相場師』なる人物からいきなり、母さんへ遺産として五億円もの大金が残されたのだ。それをきっかけに周りの人たちの態度は変わり、父さんと母さんの仲もおかしくなってしまう。なぜこんな事になったのか？ その謎を解くために、サッカー少年の「僕」と、頭の切れる将棋部の友人、島崎。二人の中学生が奔走する、一風変わったミステリー。なにより、主人公の側からつづられる、中学生の視点が絶妙です。

(紙皿)

そう、ここは孤立している



スティーヴン・キング著
文春文庫
©文藝春秋
各840円

それぞれに事情を抱えている三人家族の夫が、冬の間、雪に閉ざされて孤立するホテルの管理をすることになり、家族三人で移り住む、という設定だけでもすでにホラーな感じが漂う作品です。静かな雪山にふさわしく、悲鳴や絶叫が聞こえてくるような感じではなく、精神的にじわじわくるような怖さ。超常現象や超能力を扱っているながら、人物の心理、物語は、リアリティーに溢れています。読んだときはそうでもなくても、後でふと思いついたときに、ぞくつとするかもしれません。

(NI)



大沢在昌著
講談社文庫
© 講談社
620円

不良親子の国規模でのアクティブな仕事

仲が悪いんだかどうかわからない、似たもの親子のアクション活劇、シリーズ三作目の長編小説は外国にまで飛び出したりと、俄然ハードでボイルドです。政府がらみの知り合いからの依頼は、東南アジアの島国から来日した王女の護衛。王族といえば陰謀、陰謀といえば暗殺、暗殺といえばコードネームつきの殺し屋。そんなわけで、シヨットガンを向けられたり、毒矢が飛んできたり、身体に爆弾を仕掛けられたりと、アルバイト探偵は大忙しです。

(紙皿)

『女王陛下のアルバイト探偵』(65)



島田荘司著
講談社文庫
© 講談社
750円

完璧なる乙女はどこに？

傑作と呼ばれる小説があり、傑作と呼ぶべき小説がある。この小説は、傑作と呼ぶべき小説であろう。数々のトリックの裏に横たわる、体の一部が欠損している娘の死体達。占星術と錬金術によって、完璧なる乙女を作ろうと、綿密に考えられたこの事件の美しさ！人の目をごまかして、うずめられた真実は日本全国に。星の導きで最後に出会うのは誰？

注：二十万円を、三十分で二十一万に増やす方法、のつてます。(嘘ではないです)

(九代目)

『占星術殺人事件』(73)

『探偵小説辞典』(82)

初の乱歩賞を受賞したのはなんと探偵小説の辞典。著者はその名とどろく中島河太郎。そもそも乱歩賞は今みたいに新人の小説にあげる賞ではなかったのです。ともあれ出版されたのは結構な昔ですが、辞典としての価値はまったく変わらないものです。一家に一冊あってもいいと思います。青空文庫と相性がいい本です。



たぶん半分は趣味の辞典



中島河太郎著
講談社文庫
© 講談社
1249円

『点と線』(100)

松本清張の長編推理小説初作品です。長編といっても、他の文庫と比べてみると、分厚いわけではないです。刑事が時刻表をみながら、日本を縦断し、犯人であろう人のアリバイを崩そうとするストーリーはテンポよく、空白の時間や乗り換え、随所にてでくる時間の話に、数字が苦手だとこんがらがる部分もありますが、それでもさくさく読めます。

(NI)

犯人の痕跡を追う



松本清張著
文春文庫
© 文藝春秋
729円



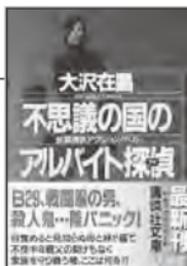
山田悠介著
幻冬舎文庫
© 幻冬舎
519円

山田悠介がおくる復讐物語。 あなたも気をつけて…

山田悠介、「リアル鬼ごっこ」などで良く知られていると思います。現実ではありえないゲームなどに主人公が巻き込まれていくストーリーが多い人です。この「Xゲーム」は小学校時代の「Xゲーム」と評した「いじめ」から起る復讐の話です。あれから十二年…一本のハミリテープの映像、虐殺された担任、突如姿を消したクラスメイト。かつての「Xゲーム」との関係は？ちよつとホラーっぽい感じでスリル満点！主人公への愛は届くのか？愛されながら追いつまれていく主人公をドキドキしながら読んでください。

(彪)

『Xゲーム』(16)



大沢在昌著
講談社文庫
© 講談社
649円

不良息子が国を越えた、 アルバイト物語

ある日訪ねてきた謎の男、その男と父親の銃撃戦に巻き込まれ、冴木隆は意識を失う。で、目が覚めると。なぜか見知らぬ「自分の家」にいて、さらには「妹」と「お母さん」までいたのです。ここはどこなのか？何が起きたのか？どうして自分の知らない「家族」がいるのか？夢か現実か、いたって普通のようにでいて、どこかおかしい「日常」の中。不良中年の助けは見込めず、一人戦うアルバイト探偵の明日はどっちだ。

(紙皿)

『不思議の国のアルバイト探偵』(124)

『迷路館の殺人』 (140)

Who is the SISIYAKADOMI?



綾辻行人著
講談社文庫
© 講談社
780円

ギリシャ神話から生まれた迷路のような館こそ、この物語の舞台である。鹿谷門実なる人物が、実在の事件を元に描いた、不可解にして静かな狂気をあおる世界。四人の作家が賞金を目指して館を舞台に殺人事件を描くのだが、その作品が作者の命を奪おうとする！タイプする一文字が、犯人が忍び寄る一足に変化する恐怖。この迷路でミノタウロスとなっているのは？アリアドネの加護で迷路を解き明かすのは？さあ。あなたも迷路の住人に。

(九代目)

『夢にも思わない』 (148)

夢にも思わなかった



宮部みゆき著
中公文庫
© 中央公論新社
680円

下町の庭園で催された虫聞きの会。そこで、起きた殺人事件の被害者が、「僕」が好意を寄せていた同級生の従妹だった!? あこがれの彼女の周りで起きた事件、気落ちする彼女を励ますために、やる気の「僕」と微妙な島崎が操作に乗り出す。続編である今作は、前作のような中学生のたわいのないやり取りは健在ですが、読んでいくうちに、なんともせつない気がしてきます。ちなみに他の出版社からも出ていますが、個人的には表紙の絵は中公文庫の方が好きだったりします。おまけでパラパラ漫画つきという、誰得の極みです。

(紙皿)

青春 恋愛

ワコオ
150
文庫



三浦しをん著
角川文庫
©角川書店
540円

秘密を抱え、彼は彼に会いに行く。夢を見ることも、野心もすべてあの夏の日に生まれた。

『月魚』(49)

古書店「無窮堂」の若き当主、真志喜とその友人で同じ業界に身を置く瀬名垣。二人は幼い頃から、密かな罪の意識をずっと共有してきた。瀬名垣の父親は「せどり屋」とよばれる古書界の嫌われ者だったが、その才能を見抜いた真志喜の祖父に目をかけられたことで、幼い二人は兄弟のように育ったのだ。しかし、ある夏の午後起きた事件によって、二人の関係は大きく変わっていく。古書の世界に魅せられた真志喜と瀬名垣。三浦さんの透明感ある文体で、二人の絶妙な関係性をえがいています。お互いを想う二人の感情の流れが、とてもきれいで素敵です。

(YKM)

『美人物語』 (120)



島村洋子著
光文社文庫
©光文社
480円

美しいということは大変なことなのです。私のことを「エエ女」なんて、天使に向かって、「天使のようだ」と言うのと同じこと

美しいということは大変なことなのです。私のことを「エエ女」なんて、天使に向かって、「天使のようだ」と言うのと同じこと。と平然と公言するやや性格に難アリの、無敵の美人・美香子。嫌気がさしつつも美香子には逆らえないケイタロー。そこへ突如として現れた、美香子そっくりの理香子と理香子の高校の同級生の薬師寺くん。物語は薬師寺くんが間違えて美香子へエメラルドの指輪を贈ったことで話しがややこしくなる。美香子はどうやら薬師寺くんに一目ぼれした模様。大阪を舞台にくり広げられるコミカル・ラブ・ストーリー。結末はいかに!?

(無記名希望)

『フライ、ダディ、フライ』 (126)



金城一紀著
角川文庫
©角川書店
540円

大切なものを守るために、強くなる。
「おっさん、空を飛んでみたくなはないか？」

鈴木一、四十七歳。いたって平凡なサラリーマン。ただし家族を守るためならスーパーマンになれるはずだった。そう信じていた。あの日が訪れるまでは――。一人娘を不良高校生に傷つけられ、刃物を手に復讐に向かった先で鈴木さんが出会ったのは「ザ・ゾンビーズ」の面々だった! 脆くも崩れてしまった世界の中ではたして鈴木さんは大切なものを取り戻せるのか。ひと夏の冒険譚がいま始まりを告げる。

平凡でダメなお父さんと、ザ・ゾンビーズ。娘のために強くなろうと頑張る鈴木さんと、それを支援するゾンビーズの関係がとてもいいです。大切な人を守るために強くなること。パワーと

勇気をもらえる作品です。

(YKM)

『舞姫通信』 (133)



重松清著
新潮文庫
© 新潮社
580円

君の「いつか」が、ずっと、ずっと、
遠い日でありますように

女子高の教師になった宏海には、自殺した兄の陸男がいる。遺書もなく、誰にも何も言わないうまま死んでしまった。宏海が勤める学校では、数年前に自殺した少女を舞姫と呼び、毎年何枚も、匿名のプリントが配られる。最近テレビでは、「自殺志願」のタレントが注目を集めて、社会現象にまでなっている。本の中では、自殺を肯定する人も否定する人も登場し、意見を主張する。どちらが正しいと、答えが示されないからこそ、生きることや死ぬことに対して考えさせられる一冊。

(A M)

『レヴォリューションNo.3』 (151)



金城一紀著
角川文庫
© 角川書店
540円

ザ・ゾンビーズ始動!!!
ギョウザ大好き!!

「君たち、世界を変えてみたことはないか？」オチコボレ男子高に通い、死んだような毎日を送っていた「僕たち」は生物教師ドクター・モローの言葉で突如生き返り、世界を変えるために行動を開始する。その方法は、難攻不落のお嬢様女子高の学園祭に潜入してナンパをすること！果たして「僕たち」の潜入作戦は成功するのだろうか！金城一紀のザ・ゾンビーズ・シリーズ第一弾です。愛すべきおバカ、「ザ・ゾンビーズ」。いつでも全力で、いつでもがむしやらかな彼らが大好きになります。本気のおバカには、きっと世界を変える力がある！

(Y K M)



市川拓司著
小学館文庫
◎小学館
600円

カメラマン志望の大学生・瀬川誠人は、嘘つきでとても謎めいた女の子・里中静流と知り合う。誠人はかなりの奥手だったが、静流とは自然にうちとける。そして静流は誠人に写真を習うようになる。やがて誠人は静流に思いを告げられるが、誠人にはずっと好きな人がいて、その思いを受け取ることはできなかった。一年後、卒業を待たずに静流は姿を消した。嘘つきで、しょっちゅう誠人をからかっていた静流だったが、最後の大きな嘘を誠人についたまま――。映画「ただ君を愛してる」の原作になった小説。静流の誠人にたいする、素直な気持ちの表現がとてもかわいくて切ないです。小説を

読んだらぜひ映画のほうも観てください！

(YKM)

ぶんころむ

ブックオフ文庫棚戦争

ずいぶん前、どこかの雑誌でブックオフの105円棚に一番多くある文庫は誰の文庫かという企画が載っていた。制したのは西村京太郎氏だったそうだが、ブックオフの105円棚はお金のない学生にも優しいので要チェック。読みたい本が100円で買えたり、いわゆる「せどり」だってできないはない。私はとりあえず100円の文庫で気になったものは片っ端から買っているのだが、文庫だからと甘く見ているとあっという間に部屋が文庫まみれになる。それでもやめられない105円文庫の魔力。さらに105円以外の文庫棚でもセールともなれば「せどり」名人戦が繰り上げられることも。ブックオフの文庫棚は今、静かな戦争の場となっている。

(■■■■)

古典

ワコオ
150
文庫



大津有一著
岩波文庫
©岩波書店
483円

日本の古典入門に最適

『伊勢物語』(16)

日本人ほど自国の古典を読まない民族はいないのではないだろうか。だから読もう。以上。

(二都)

『山月記』 (55)

若き文豪の傑作選



中島敦著
岩波文庫
© 岩波書店
735 円

中島敦の作品と文章ははつきり言って硬い。硬いと言っても柔らかい作品を拒絶する硬派な、思想的硬さではない。なんつーか、こう、物理的な硬さなのだ。意味が分からない人はスルメを思い浮かべてほしい。まさにあんな感じの硬さだ。つまり最初のうちは「硬い文章だな」と感じるが、噛めば噛むほど味が出るスルメのように、読み込んでいくうちについ癖になってしまふような感じだ。おそらく酒の肴にもなる、はず。

(二都)

『夢十夜』 (147)

漱石が描いた暗く美しい夢の十篇



夏目漱石著
岩波文庫
© 岩波書店
483 円

夏目漱石の文章は非常に美しい。古今の日本の作家で最美と言っても過言ではない、と思う。凡庸で読み込み安いのには瀟洒でオシャレな雰囲気纏っている。平坦な道のわきに小さく可愛らしい花が咲いている。だけど足を止めて見ってしまうほど美しい花でもない。ある人はちらりと見やりある人は気付かず通り過ぎていく風景、そんなささやかな美しさ。料理で言うといタリア料理、なんとなく。

(二都)

現代小説

ワコオ
150
文庫



奥田秀明著
文春文庫
© 文藝春秋
530円

これでも医者です。
たぶん。

変人？変態？それとも名医！？お金持ちでマザコンの精神科医・伊良部先生と悩める患者たちの時に愉快で時に考えさせられるお話。先生の元へやってくるのは、水泳依存症、陰莖強直症、携帯電話依存症など難しい患者ばかり。それに対する先生の暴走治療つぶりも見事です。「ええ！？本当にこんなので治るの？」と患者と共に驚いたりドン引いたりしながらも、つつい結果が気になってしまう。これが原作となった松尾スズキ主演の同名映画も面白い。

(つむじ)

『イン・ザ・プール』(20)

『海の底』 (23)

「奴ら」は、ぼくらを喰いにやってきた。



有川浩著
角川文庫
©角川書店
740円

四月。桜祭りで開放された米軍横須賀基地。停泊中の海上自衛隊潜水艦「きりしお」の隊員が見た時、喧噪は悲鳴に変わっていた。巨大な赤い甲殻類の大群が基地を闊歩し、次々に人を「食べている！」自衛官は救出した子供たちと潜水艦へ立てこもるが、彼らはなぜか「垂んでいた」。一方、警察と自衛隊、米軍の駆け引きの中、機動隊は凄絶な戦いを強いられていく……。有川浩、自衛隊三部作のひとつ。舞台は「海」、海上自衛隊です。巨大な赤い甲殻類との戦いを軸に、さまざまな人間模様がかかれています。機動隊の死闘、「きりしお」の中、それぞれの視点から進んでいくストーリーはとも読めぬ

があります。

(YKM)

『格闘する者に』 (30)

今日は5時間で18冊の漫画を読んだ。
まずまずのペースと言えよう



三浦しをん著
新潮文庫
©新潮社
500円

就職活動中の女子大学生可南子。人生で一番熱心に続けていることはマンガを読むことで、マンガにかける情熱は人一倍。会社の説明会に行くふりをして義母の目を欺き、マンガ喫茶で読書に励み、『キン肉マン』初版本を見かけて面接を蹴るほどだ。しかし、数々の出版社に挑むも破れ、連戦連敗。このままでは親のあとを継がせられて政治家になってしまう！ 高校生の弟は家出をして行方不明。老書家の恋人とは音信不通。面接先で立ちほだかる障害。迫りくる現実と闘う可南子は、無事就職先を見つけないことができるのか。

(AM)



角田光代著
文春文庫
© 文藝春秋
530 円

とくべつさびしくなんかないのに、 さびしいってどんなことかわかるだろ

京橋家は、家族の間で秘密をもたないのがモットー。隠さなければいけないような、恥ずかしいことや悪いことが京橋家には存在しないから。思わぬところで母親をみつけてしまった娘。姉にひきこもりになるのではないかと思われている息子。親の援助をうけて家を買った父。理想の家庭を手に入れた母。それぞれ秘密をもちながら生活する家族と、二人の女の視点から書かれ、劇的な出来事がおこることもなく、なにかが解決されることもない家族小説。

(A M)



奥田英朗著
文春文庫
© 文藝春秋
499 円

無謀な挑戦、 しちゃいます。

伊良部先生シリーズ第二作目。伊良部先生のおかしな治療はもちろんのこと、ナイスパディな看護婦・マユミちゃんも健在です。でも、毎回打たれる注射の中身はなんだろうと患者以上に気になる……。これも自己暗示のための一種の治療法なのか？と疑ってしまいます。表題作『空中ブランコ』はドラマ化されました。それに続いて二〇〇九年一〇月にはアニメまで放映。お話は毎度お馴染みのパターンで治療結果もだいたい予想はつづくのに飽きがない面白さと安定感。先生の「ぐふふ」笑いもだんだん慣れてくるかも……。ぐふふ。

(つむじ)

『空中庭園』 (45)

『空中ブランコ』 (46)

『クラウド・コレクター』(47)

ここから最も遠くて近い場所。祖父が創ったアゾット(AZOTH)への小旅行は劇的なこともなく、明確な終わりもない。不思議な余韻を残す旅でした



クラウド・エヴィング
商會著
ちくま文庫
©筑摩書房
997円

「雲、売ります。」倉庫の祖父の遺品からでてきたのは、手作りのラベルが貼ってある数本の壘と古い手帖。どうやら、手帖は旅行記で、壘は旅先で手に入れた物らしい。舞台はアゾット(AZOTH)と呼ばれる自分たちが生活している所とは違った遠國。しかし、そこはどうやら祖父の頭の中でのみ存在する國らしい。だが、何故祖父はこんな膨大で緻密な嘘をしたためていたのか……。理由は不明だが私はこの祖父の遠大な嘘の片棒をかつぎたくなってきた。ここから最も遠くて近い場所。不思議でよくわからない場所。貴方も旅してみませんか？

(無記名希望)

『サウスバウンド』上・下(53)

僕の父さんは元過激派だ



奥田英朗著
角川文庫
©角川書店
上：580円下：540円

小学校六年生になった長男の僕の名前は二郎。父の名前は一郎。誰が聞いても「変わってる」と言う。父が会社員だったことはない。物心ついたときからたいいてい家にいる。父親とはそういうものだと思っていたら、小学生になって級友ができ、ほかの家はそうではないらしいことを知った。父はどうやら国が嫌いらしい。むかし、過激派とかいうのをやっていて、税金なんか払わない、無理して学校に行く必要などないとかよく言っている。家族でどこかの南の島に移住する計画を立てているようなのだが――。型破りな父ちゃんに振り回される家族。少年・二郎と家族や友人たちとの日常がとてもユニークです。二郎の父親に対する感情の変化も、読んでいてとても惹きつけられます。

(YKM)



小野不由美著
新潮文庫
© 新潮社
620～780円

深夜 あなたの元へ夜へのお誘い

お坊さんは小説家。夢見る乙女は恋に身を焼く。熱心なお医者者の奮闘記。憧れの人とかわす少女の逢瀬。都会を見据えた少年。熱く陽炎の揺れる村に起きた一夏の夢。心の中にいつの間にか溶け込む文章で、あのけだるい空気が描かれています。少しずつ人がいなくなる不安に、胸をドキドキさせてください。窓の外からやってくる人に、胸をドキドキさせてください。真冬のコタツで読んだなら、きっと不思議な心地になりますよ。

(九代目)

『屍鬼』
133 (57)



有川浩著
角川文庫
© 角川書店
740円

高度二万メートル—— そこに潜む「秘密」とは？

二〇〇X年、謎の航空機事故が相次ぎ、メーカーの担当者生き残った自衛隊パイロットは調査のために高空へ飛んだ。高度二万、事故に共通するその空域で彼らが見つけた秘密とは？ 一方地上では、子供たちが海辺で不思議な生物を拾う。大人と子供が見つけた二つの秘密が出会うとき、日本に、人類に降りかかる前代未聞の奇妙な危機とは——。有川浩、自衛隊三部作のひとつ。舞台は「空」、航空自衛隊です。ストーリー設定が緻密で、スピード感とスリルのある内容になっています。文庫化されるにあたって「仁淀の神様」という掌編が追加されたので、ハードカバーで読んだことのある人にもおすすめです。

(YKM)

『空の中』
(75)



奥田英朗著
文春文庫
© 文藝春秋
530円

金ダライも治療の一部です。

伊良部先生シリーズ第三作目。今回もユニークなお話が四話。第二話「アンボンタン」（アンボンマンではない）では、「平仮名アルツハイマー」（先生が勝手に命名）になった若手企業家が、秘書に無理やり治療を受けさせられます。頭の固い企業家に看護婦・マユミちゃんが左手に注射器、右手に金ダライで患者に迫るシーンには思わず笑みが浮かんでしまいます。どこまでが素なのか分からない先生に振り回されるのもだんだん快感になってきてしまうかも!?

（つむじ）

『町長選挙』(89)



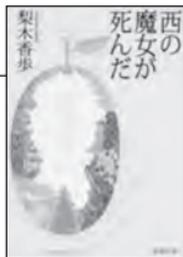
山本幸久著
文春文庫
© 文藝春秋
610円

コミカルでちょっと切ない、青春仕事小説!

エロ雑誌のレイアウトもスーパーのチラシも、なんでもござれの弱小デザイン事務所・凹組クロニクル。恋愛じゃなく、友情じゃなく、仕事仲間。彼らがいいつも、そばにいた。キュートでコミカル、ちょっと切ない、オシゴト系長編小説——。どんなに小さな仕事でも一生懸命にこなし、迷っても悩んでも挫折しても前へ進んでいく凹組。働く、仕事をするこの意味とはなんなのかを教えてくれる作品です。壁にぶつかったときや、少し疲れたなと思うとき、心の回復に読むのをおすすめします☆

（YKM）

『凹凸デイズ』(95)



梨木香歩著
新潮文庫
© 新潮社
420円

アイ・ノウ

読んだら、おばあちゃんに大好きだよって言い
たくなる本。中学校に疲れてしまったまいが、
田舎に住むおばあちゃんの家で一緒に暮らす、
ただそれだけの本。でも、とても特別になれる
優しい愛しい本。おばあちゃん大好き。その一
言に、アイ・ノウと、知ってますよ、と微笑ん
でもらえる時の安堵感ほだけだだろう。泣い
て笑って、何気ない日々と小さな事件のその先
にある幸せ。魔女のメッセージをあなたも読ん
てください。

(九代目)

『西の魔女が死んだ』(107)



恩田陸著
集英社文庫
© 集英社
540円

高校生男子四人の年末

冬休み、帰省をしなかった美国・寛司・光浩と、
通学組である統の四人は、学生寮「松籟館」で
告白ゲームを行う。光浩は一つだけ、告白ゲー
ムのルールを決める。一つだけ嘘をまぜること。
学校で確立されている立場が、四人だけのこさ
れた寮で崩れる。そして、告白ゲームを通して
本音と秘密を暴露していく様子は、それまでの
キャラクターのイメージとギャップがありスリ
リング。その反面、ゆるゆると年賀状を書いた
り、ふざけた冗談を言い合うほのぼの感もある。
恩田陸が、「もうこれは今の私には書けないな
あ」と述べた、男子校青春小説。

(A M)

『ネバーランド』(112)



中原昌也著
河出文庫
© 河出書房新社
473円

ギャハハハ、って感じ

小説を書くことが大嫌いな著者のデビュー作、まさかの文庫化。金のため生活のために書かれた小説集がなぜこんなにも面白いのだろうか。著者の意図とは無関係に読者はこの小説集でいろいろな深読みをしたくなるだろう。それだけの意味が潜んでいそうな小説を中原は書き続けていた（現在断筆中らしい）。この小説集に限らず中原の本は、なんのために小説を読むのかを考えさせられる不思議な本である。



69

『マリ&フィフィの
虐殺ソングブック』
(137)



藤沢周平著
新潮文庫
© 新潮社
740円

江戸に活躍、用心棒

ある事情で脱藩して、国元を離れ、江戸で浪人暮らしをする主人公が、用心棒などを務めながら食いつないでいくなかで、物語が展開します。文庫自体に厚みはありますが、作品が元々は連載だったので、一話完結の話がいくつも載っているような形で、読みやすいのではないのでしょうか。小さな事件、大きな事件、悲しい出来事、変わった出来事、物語の中でさまざまに動きまわる、個性的、あるいはひとクセある登場人物が楽しい、重すぎない時代小説だと思えます。

(N1)

『用心棒日月抄』
(149)

ライト ベルト

ワコオ
150
文庫



細音啓著
富士見ファンタジア文庫
©富士見書房
各609円

この想い 歌に託せ あなたに届け

本作を読んだことがないので多くを語れず申し訳ない。「文学少女」と本作のイラストレーターが同じというだけで選んだのが本音であり、また理由でもある。そうしないと本を紹介する意味がないと思ったからだ。いわずとした学園小説であるが、音色に彩られた繊細な文章に注目していただきたい。気付いた時には不思議な世界に導かれているはずだ。

(真田隼人)

『黄昏色の詠使い』シリーズ(8・13・34)

『アリソン』 I~III (上・下) (9)

ライトノベルファンタジーの傑作



時雨沢恵一著
黒星紅白 (イラスト)
電撃文庫
© アスキー・メディア
ワークス
536 ~ 641 円

ライトノベルという文化がいつ頃から始まったかは知らないが、その中で重要な位置を占めているジャンルに「冒険ファンタジー」というものがある。そのライトノベルにおける冒険ファンタジーのスタンダードというものが存在するとしたらそれは本書だろう。ライトノベル入門にオススメの書。

(二都)

『イルゲネス』 上・下 (19)

人造人間に人権はあるのか？



桑原水菜著
Mag-garden novels
© マッグガーデン
各 900 円

天然体と非天然体……生きていることは同じなのに。「誕生の島」イルゲネス、遺伝子操作による人造人間の売買によって国家資金を作りだしている国。物語はこの島のありかた、政策・人権を中心に語られていきます。反クローン売買のテロ活動をしているレイ、現政府が起こした革命の立役者であり、今は場末のバーの主でレイと関係を持つジェイクイズ、ジェイクイズの親友で現元首のフォン。人として生きたいがために必死に戦う三人を取り巻く友情と人間の論理がテーマの物語。最初は急展開ですが、なかなかおもしろいと思います。

(彪)



萬屋直人著
方密 (イラスト)
電撃文庫
© アスキー・メディア
ワークス
620円

透明な滅びの中を、 少年と少女は歩いて行く

異色の冒険譚。内容自体はそれほどネガティブなものではない。だが登場する人物、場面、描写に目に見えない透明な影のようなものを感じる。それはおそらく「死」という生理的な滅びではなく、消滅と忘却から来る美しい滅び故。この説明だけでは理解し難いと思うので、興味を持った方は是非一読してほしい。

(二都)

『旅に出よう、
滅びゆく世界の果てまで。』(78)



成田良悟著
ヤスダズヒト (イラスト)
電撃文庫
© アスキー・メディア
ワークス
662円

オー貴方スシ食ウヨー。 貴方コレ読ムヨー

壊れて歪んで曲がって汚れて溢れて窪んで砕けて染まった……愛しいいとしい愛の物語。成立してのに壊れた世界にようこそ。池袋の街を白バイに追われながらも突っ走るライダー。カタコト日本語と素敵な笑顔で寿司をすすめるロシア黒人。人が好きで大好きで愛してて人の死にすら愛を求める男。二次元世界に愛をささげ本屋を巡って買っては拷問に使っちゃう二人組。あなたはどの愛を感じますか？彼女の首は何処ですか？

(九代目)

『デュラデュラ!!』(96)

『とらドラー』シリーズ (103)

大河の一滴は竜と成す



竹宮ゆゆこ 著
ヤス (イラスト)
電撃文庫
© アスキー・メディア
ワークス
536～599円

目つき以外はいたって普通の男子と背は低い
が凶暴な「手乗りタイガール」と恐れられる女子の
熱血王道ラブコメディである。作者は前作『わ
たしたちの田村くん』で一躍有名になった人だ。
前作は男子一人と女子二人の三角関係を描いて
いたが、本作はそれをさらに上回り、群像劇並
みに仕上がっているから驚きだ。もちろん、笑
いあり、萌えあり、涙ありのお約束な展開があ
るので、是非一読してもらいたい。

(真田隼人)

『BowWow... Two Dog Night』 (113)

イカれた島のラジオを聞きやがれ！
そこは名前を付けてもらえなかった島



成田良悟 著
ヤスダズヒト (イラスト)
電撃文庫
© アスキー・メディア
ワークス
620円

ゴミ溜めとスクラップと世界からはぐれた人の
集まる島。そして、そんな島に集ったイヌ達。
境界線に交差するのは銃声悲鳴銃弾とヒミツ。
誰もが必死に理想を追ってる物語。ヒーローに
なりたかった。この島の地図を作りたい。逃げ
場所を、探したかった。さあ。笑って笑って笑っ
て笑って。オムソバと烏龍茶でもいかがです？

(九代目)

『文学少女』シリーズ (127～129)

人は誰しも心に闇を抱えている。それが表に現れるのはまれであり、親しい者同士の間で起こりやすい。逆もまた然りである。本作の主人公・井上心葉はこれと似て非なるタイプである。心の叫びを読者に語るものの、物語のメインとなるキャラクターに明かすことは、数えるほどである。そんな彼が出会ったのが「文学少女」と名乗る天野遠子である。実は彼女、本を食べちゃうくらいの本好きなのだ……。

(真田隼人)



野村美月著
ファミ通文庫
© エンターブレイン
588～630円

鼠と猫の追いかっこ！
勝つのはどっち!?

名前が付けられることになかった島がある——。島に捨てられ、ただ島から逃げ出したい「鼠」達と島の危険を知りながら、島の行く末を見守り続けたくて島に留まる「猫」によるおいかっこ☆ 島を壊したい「復讐者」や美しい芸術の島を守りたい自称「偽善者」の思惑が混ざり、ストーリーは進んでいきます。チェンソーを振り回す少女などハチャメチャな人物が多く、内容は先が読めてしまう感がありますが、おもしろいのでスイスイ読めると思います。途中ビックリするようなページもあります。

(彪)



成田良悟著
ヤスダズヒト (イラスト)
電撃文庫
© アスキー・メディアワークス
641円

『New Mew!
Crazy Cats Night』 (39)

優しさ 切なさ そして残酷さ
欠けていたパーツが全て揃っている

人食い物語の三部作だ。グロテスクな設定であるものの、儚さと美しさを感じられるのはなぜだろうか。何かを犠牲にしなければ生きていけない、既に世の理（ことわり）となっているのは紛う事なき真実であり、道理だ。抗う術はない。だが、もしそれに立ち向かえるものがあるとしたら、その人は希望を持っているからなのだろう。根拠なんて何もない。ただ、希望だけを捨てずに生きる。未来なんか、何もわからないうのだから、だから希望を頼りに生き続ける。変革したとして、得るものと失うもの、どちらが大きいのだろう。これがシリーズに隠されたテーマだと、私は思います。

(真田隼人)

『ミニズクと夜の王』 (138)
『MAMA』 (136)
『雪蟻螂』 (146)



紅玉いづき著
岩城拓郎 (イラスト)
電撃文庫
© アスキー・メディア
ワークス
578円



紅玉いづき著
カラス (イラスト)
電撃文庫
© アスキー・メディア
ワークス
578円



紅玉いづき著
磯野宏夫 (イラスト)
電撃文庫
© アスキー・メディア
ワークス
557円

小海外 説

ワ
コ
オ
150
文庫



ルーシー・モード・モンゴメリ著
新潮文庫
©新潮社
660円

ようこそアンの世界

両親を早くに亡くし、あちこちを転々として育った少女が、引き取られることになって、やって来たプリンス・エドワード島。でも、先方がほしがっていたのは、男の子だった……。そんな風が始まる、赤毛にそばかすの、世界的に有名な女の子「アン」の物語の、第一作目。一作目、十一歳のアンは、とにかくよくしゃべる。アンが口を開くたび、その「」の長さにはびっくりします。アンは成長だけでなく、島の風景、当時の暮らしも、垣間見ることができます。

(N1)

『赤毛のアン』(5)

『アン青春』(12)

アン、教師になる



ルーシー・モード・モ
ンゴメリ著
新潮文庫
© 新潮社
620円

アンシリーズ第二作目。十六歳になったアンは、自分の母校でもあるアヴォンリー小学校で、教師として働き始めます。おしゃべりは少し減ったようですが、空想が好きなところは相変わらず。その空想とともに語られる、美しい島の風景は、作者モンゴメリの生まれた、現実のプリンス・エドワード島の景色でもあるのでしよう。この本から、島の四季が伝わってきます。

(NI)

『アン愛情』(11)

故郷から新しい世界へ



ルーシー・モード・モ
ンゴメリ著
新潮文庫
© 新潮社
620円

アンは教師を辞め、かねてから目指していた大学に入学します。アヴォンリーで初めて大学へ行く女子であるアン。知り合いの人たちが、あまりいい顔をしないのは、当時の社会でもそうだったのだろうと思います。舞台は、プリンス・エドワード島を飛び出して、大学のあるキングスポートへ。新しい学友、島以外にいる人々がたくさん登場する『アン愛情』は、ゆったりとした島が中心だった、前の二作より、にぎやかな作品です。

(NI)



シャーロット・マク
ウド著
創元推理文庫
© 東京創元社
609円

捜査難航なヴァイキングの 遺跡ミステリー

新聞記者がとあるルーン文字の石碑を見に行こうとしたその途中、農場で死体を発見してしまう。どうにも怪しいその事件に、すっかり探偵として有名になったシャンディ教授が呼ばれるが、件のルーン石碑がヴァイキングの遺跡と判明した途端、事故死でも他殺でもなく、事件はヴァイキングのせいになってしまふ。はたして捜査はどうなるのか？ちなみに、この文庫の挿絵はグイン・サーガなどでも有名な天野喜孝さんだったりします。つい最近気がつきました。

(紙皿)

『ヴァイキング、ヴァイキング』(21)



ヴァレリー・ニコラ・
ラルポー著
岩波文庫
© 岩波書店
735円

ありふれた日常に点在する美

フランスの比較的マイナーな作家ラルポーの短編集。その内容は思春期を迎えたころの少女を題材にしたものが殆どである。その内容は朗らかかつ日常的であると同時に、まどろむような耽美性と背徳感を内包している。わかりやすく言えば「ささやかなまどろみの中、午後の陽気に照らされながら一人でティーを飲んでいゝる。平和だなあとため息を漏らすと今日無断で学校をサポートしたことを思い出した」とかそんな感じ。

(二部)

『幼なごころ』(27)

不思議の国のアリス



イギリスの数学者が描いた少女の冒険

鏡の国のアリス



ルイス・キャロル著
岩波少年文庫 © 岩波書店
714円・672円

『不思議の国のアリス』(123)
『鏡の国のアリス』(29)

優雅で知的、自由な無邪気さ、ユーモラスで柔和。イギリスの数学者、ルイス・キャロルが書き綴った「アリス」は、まさに完全無欠の少女像だった。苦悩とか汚れとかと切り離された「それ」は人の姿をした永遠の美術品だ。こんな存在を生み出したキャロルは正に稀代の変態と言えよう。アリスには完璧で完全な完成された美しさが備わっている。そこには想像力や補完の入り込む余地は無い。

(二都)

北のはてのイービク



ピー・ラルク・フロイゲン著
岩波少年文庫
© 岩波書店
672円

え？グリーンランド文学？
面白いの？へ〜、読んでみようかな

この作家を知っていたらどうか。知らなかったと思う。何故なら、この本が日本で初めての翻訳だからである。そればかりではなく、この作家はこの作品しか書いていないのだ。そんな本は、めったにない。デンマークの探検家の父とグリーンランド出身の母との間に生まれた作家は、子ども時代に、グリーンランドに住んでいた。その思い出を元に書かれた、小さな冒険物語。主人公は、イービクと言うエスキモーの少年。ある日、父と狩りに行った。そこでセイウチに父を殺されてしまう。彼と家族は、飢えに苦しむ。それを救うために、イービクは、旅に出る。こんな話である。流行っている文学なんて読みたくない、そんなひねくれ者の人に読んで欲しい。

(ほらふき男爵)

『北のはてのイービク』(39)

イギリス最大の叙事詩

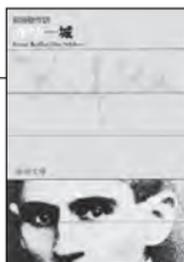


ジョン・ミルトン著
岩波文庫
© 岩波書店
各 840 円

神話・宗教に興味がある人は是非読んでほしい。ファンタジー好きやオカルトマニア、ブラックメタル信者でも構わない。十七世紀の盲目の詩人・ミルトンが全知全霊を賭けて綴った壮大な物語だ。旧約聖書の創世記をテーマとした本書は、天使と悪魔の戦い、人間の創造と墮落、未来への指南について様々な比喻や引き合いを用いて書かれている。文学史上最大の傑作だと個人的には思っている。

(二都)

永遠にたどりつけない終わり



フランツ・カフカ著
新潮文庫
© 新潮社
820 円

未完の長篇の人、カフカのやっぱり未完小説。ある日、Kという測量師が村へやってくる。城から仕事を依頼されたというのだが、その城からはまったく連絡がなく、Kはその村に滞在することになる。そして月日は流れに流れるが城からの連絡は一向にない。どこぞで『カマーズフの兄弟』に唯一対抗できるのがカフカの『城』だ。なんて言われていますが、対抗するも何もカフカはカフカでしかなく、その作品の重要性は変わらないのです。

(三都)



ウィリアム・シュエ
アード・パロウズ著
河出文庫
© 河出書房新社
788円

スペルマティックファンタジー

ジャンキーでおかまで妻殺し。作品よりも著者自身が面白すぎるウィリアム・S・パロウズによるカットアップ三部作の第一作。カットアップとはばらばらに切り混ぜた単語を無意味に並べることと新しい文章を生み出す技法で、『爆発した切符』（サンリオSF文庫・絶版）と『ノヴァ急報』（サンリオSF文庫／ペヨトル工房・両絶版）を擁する三部作は普通に読もうが深読みしようがまず読み切ることが難しい本である。物語の断片（らしきもの）は掴みかければぐちゃぐちゃと混じりこみ、なにがなんだかなんただけでもかっこいい。



『ソフトマシーン』(74)



レーモン・クノー著
中公文庫
© 中央公論新社
740円

地下鉄一本ドタバタのもと

ウリボの中心メンバーであったクノーの代表作。パリに着いたら地下鉄に乗ることが一番の楽しみだった田舎少女ザジはストライキにこ不満ゆかいな面々と怪しい面々が繰り広げる珍道中。一癖も二癖もある登場人物がなぜかみな愛しく、どたばたの中にもせつなさや純真さが光る。これが気に入った人は『文体練習』の方もお楽しみください。クノーの真髄です。



『地下鉄のザジ』(83)



シャーロット・マクラウド著
創元推理文庫
© 東京創元社
609円

何かがひっくり返された世界、その訳は？

魔除けの蹄鉄がひっくりかえされたのを皮切りに、金属細工の店は強盗にあい、大学からは身重の雌豚が誘拐され、ついには殺人事件まで。馬術競技大会を控えたバラクラヴァ大学を襲う大混乱、すべては幸運が逃げたせいなのか？それとも他に何かがあるのか？農業大学とその周囲を舞台にしたユーモア・ミステリー第一巻。五十六歳の教授と彼の妻、そして個性たっぷり同僚たちと、平均年齢はかなり高いのに、彼らの軽快なやり取りは実に生き生きとしていて飽きません。

(紙皿)



ホルヘ・ルイス・ボルケス著
岩波文庫
© 岩波書店
630円

紡がれ散りゆくイメージと言葉

数多くの作家たちに影響を与えたボルヘスのおそらく日本でもっとも手軽に買える一冊。『パベルの図書館』や『ドン・キホーテ』の著者、ピエール・メナール」など文学好きなら聞いたことがある著作がだいたいい入っている。言葉によって紡ぎだされる儚い迷宮は言語が空間と化する瞬間そのものである。

■
■
■
()

『蹄鉄ころんだ』(93)

『伝奇集』(97)

『にぎやかな眠り』

(106)

クリスマスの馬鹿騒ぎに対する、老教授のささやかな反撃。それがなんの悪戯か、殺人事件へと発展してしまう。もともとはちよつとした短編のひとつだったものが、話を膨らませて長編に書き直したものが本書になります。登場人物どころか、作者も最初、こんなことになるつもりはなかったのでは？ 医者や科学者が探偵役を務めることは多々ありますが、農業に特化した教授がその役を担うことはあまり無い気がします。登場人物や舞台など、様々な点で他のミステリーにはないおもしろさが見えてくるはず

(紙皿)

『二都物語』

上・下 (108)

この書を推す理由は内容がどうかとかそんな理由ではない。書名を見てほしい。『二都物語』。この四文字のなんと美しく高貴であることか。全体のバランスというかそれぞれの文字の調和というか、まさに漢字の黄金比的なものを感じないだろうか。そして「ニトモノガタリ」。この読み上げた響きのなんと甘美で轟惑的であることか。もつとも美しい日本語は何か。間違いない。「二都物語」である。と、個人的には思っている。いや信じている。

(二都)

クリスマスがくれた、 大きく些細なプレゼント



シャーロット・マクラウド著
創元推理文庫
© 東京創元社
1008円



チャールズ・ディケンズ著
新潮文庫
© 新潮社
各 540円



ジェイムズ・ジョイス著
河出文庫
© 河出書房新社
各 1260 ~ 1365 円

読めたら天才、 読み解けたら狂人

読んだことを自慢できる本シリーズの筆頭（ブルーストの『失われた時を求めて』などもそうです）。各国さまざまな言語をふんだんに使っているうちに、ジョイス語なるオリジナル語を生み出してしまったほどの文学の天才狂人。文庫で全三巻ですが、読み取り的には地獄のような長篇（ある意味ブルーストよりもきついかも）、しかも何重にも意味が隠れているから厄介なものでじやない。



ガブリエル・ガルシア・
マルケス著
新潮文庫
© 新潮社
420 円

その死すら伝説のように

なぜその男は殺されたのか。これはある閉鎖的な田舎町で起こった殺人事件の記憶である。それは些細なきっかけでほころび始め、やがて惨殺死体を生むこととなってしまった。ただの殺人事件がこうまで幻想的になるのはやはりガルシア・マルケスのイマジネーションと文体の織りなす技であろう。語られる記憶はリアリズムでありながら、それはまさに幻想小説である。彼は世界を生み出すことがとても上手な作家である。



『フィンネガンズ・ウェイク』 1~4 (122)

『予告された殺人の記憶』 (150)

『20世紀SF』全6巻(157〜162)

短篇で読むSFの歴史



アイザック・アシモフ
ほか著
河出文庫
©河出書房新社
各998円

十年ごとに年代別に分けられたSFアンソロジー。SFというものが時代の中でどう書かれてきたのか、この本を順番に読めばSFの歴史や流れもよくわかります。もちろん気になる話や巻だけを読んでもOK。SFというジャンルがどれだけ広いか、どれが一冊全部読めばしみます感じます。ちなみにワタシのオススメは第二巻と第三巻。五〇年代ロマンチックとニューウェーブ運動が堪能できます。



讀書。



活動報告

この一年の歩み

Let's Read Project 2009 年度の活動

4月	4 / 6 (月)	新メンバー募集開始
5月	5 / 11 (月)	「新入生歓迎本棚」公開
8月	8 / 9 (木)	国立国会図書館見学ツアー
10月	10 / 30 (金)	「150(ワコオ)文庫」公開
11月	11 / 24 (火)	コミック・アゴラ 2009 開催
12月	12 / 8 (火)	「絵本、はじめました」本棚公開
2月	2 / 10 (水)	第3回選書ツアー
3月	3 / 20 (土)	活動報告集「150(ワコオ)文庫」発行

二度目を迎えたLRP企画による「本棚」。地味ながら前回よりも少しパワーアップしました。題して「今週の本棚さん」。7つのジャンルに合わせた本をメンバーが選んで、オススメのPOPカードをそえて、一週間陳列。当番制で毎週更新しました。新入生のメンバーは選書ツアーが入学前だったため、「選書」には参加できませんでしたが、ポスターを作成。新キャラクターも誕生！

(表紙とp 86を見てね！)

新入生歓迎本棚 「今週の本棚さん」

2009年5月11日～6月末
公開



ジャンル

- ・ 入門本
- ・ 文庫本
- ・ 小説
- ・ コトバ
- ・ 数と理科
- ・ 歴史神話
- ・ 超オススメ



どうやって、本が目立つかな？



新入生メンバーによる新入生のためのポスター



2009年8月6日(木)午後、
国立国会図書館見学ツアーに行っ
てきました。

このツアーは3か月前から予
約しておいたもので、当日は松
村館長をはじめ、学生メンバー
9名とスタッフ3名が参加しま
した。DVDによる案内を視聴後、
国会図書館のスタッフによる非常
にフレンドリーなガイドのもと、
一般利用フロアと新館書庫を見学
しました。

国立国会図書館 見学

「国会図書館見学記」

総合文化学科一年 A M

夏休み中に行われた、国会図書館見学ツアー。永田町に建つ国立国会図書館の東京本館は、外観からして巨大かつ立派です。近所の市立図書館とのギャップが大きく、さすが国立の図書館、スケールが桁違いだ……と思いつつ入館。ガイドダンスを受け、一般利用できるスペースを見学した後、新館のエレベーターに乗り、地下へ向かいます。新館の地下一階から地下八階までは全て書庫。書架が延々と並んでいる風景は、本好きにはたまりません。昔読んでいた少しマイナーな雑誌を発見して嬉しくなりつつ、国内のあらゆる出版物を収蔵して後世に残そうとする国立国会図書館の姿勢を改めて実感します。百年後に生きている人が、幼い私が読んでいたものと同じ形の本を読むことがあるかもしれないと思うと、不思議な気持ちになったのです。



DVD を見ながら、説明をきく一同



な、なんと!? 「地下8階」
まである新館書庫のエレ
ベーターで未知の世界へ!



すでにマイクロ化が完了し、静かに眠りに就く資料群



大切に保存されているマンガ雑誌の創刊号。「スゴイ！」の歓声に混じて「懐かしー！」の声も。



地下8階の吹き抜けから「地上」をはるかに望む



百年以上前の書物もきっちり保管！和紙の寿命は永遠に不滅、か。

コミック・アゴラ 2009

2009年11月24日
午後1時～6時

館内1Fの「まんがコーナー」にあるまんが資料はあくまで大学の講義のテキストとして先生方が選定されたものに限るので、まんが愛好家の学生にとっては欲求不満がたまっているかも……。2009年9月にリニューアル・オープンした「フリー閲覧スペース」を会場に、メンバーが自宅から持ち寄ったコミック本をネタに交流しました。

(注)「アゴラ」とは、古代ギリシア語で「広場」
=人々が集い、自由に対話する場所のこと

「出入り自由・持ち込み可・持ち出し厳禁」

総合文化学科一年二部

今や日本の書籍売上の何割かを占めているマンガ。それについて取り上げようと持ち上がった企画がコミック・アゴラです。と言っても、二〇〇九年秋に行われたその初回は、メンバーがお気に入りのマンガを持ち寄って陳列し紹介する、といった内容に留まりました。和光の図書館には基本的にマンガを入れられない(図書のようにリクエストできない)など、いろいろな制約があったためなのですが……。愚痴はともかく、国内外から日本のマンガに対する注目度が年々上昇していく時勢、マンガの文化的価値も必然的に上がり、図書館を含めたあらゆる書籍を扱う機関でその存在が無視できなくなるでしょう。まあそこに遅ればせながら乗っかるとういうことなのですが。ともかく初回を終えた今、第二弾からは企画の進化に邁進していくつもりです。興味がある方はぜひ一緒にやりませんか！

DIVE!! タイプ1! CRODDOVER クロスオーバー むっちゃ、スゴいねん!! バッテ
 リー ふあいの時 バドガール 黒子のバスケ 彼女がカフェに通う理由 カリスマ・ド
 ール サイボーイ 会長はイブ オトビードエイ 奇面組 W イフ 聖☆
 花ざかり あなたがシ ラグー 画日とみ トーナメン パブワ 天 REBORN! スゴいねん



ずらりと並んだおすすめのマングたち

通う理由 カリスマ・ドール サイボーグ ギャル男 THE 爆誕! ZIG ☆ ZAG シグザグ
 らせつの花 ナンバーボーイ 会長はメイド様! ゆららの月 白妙の君、花霞 HIGH &
 HIGH ハリースター 生徒会執行 おおきく クローバー レイ SLAM といっしょ
 生 あずま キン肉マ 禁断の恋を 銀のトゲ クロスオー のバスケ ZIG ☆ Z



ただいま作業中の担当メンバー

コミック広場 (アゴラ)
 開催中!
 — Let's Read Project presents —
 *マンガについて語り、読み盛りする
 企画です。メンバーのコレクション大公開!
 *出入り自由! 持ち込み歓迎! 持ち出し厳禁!

白妙の君、花霞 HIGH & HIGH ハイアンドハイ ファイブ オトメン (Z男) 笑うかの
 こ様 ハイテンションプリースター 高速エイジ ハイスピードエイ

「^{フコオ}150 文庫」の棚公開(2009年10月30日より)と並行して、1Fにあるたくさんの絵本のなかから、メンバーが選りすぐりの逸品をチョイスして絵本の棚を造りました(ざっと40冊)。ちょうどクリスマス時期とも重なり、にぎやかで楽しい雰囲気。

体感しよう！ 絵本の世界

2009年12月8日～2010年3月末
公開

「絵本、はじめました」

総合文化学科二年 無記名希望

この企画を行ったきっかけは、第一に私自身が絵本や児童書が好きなこと。第二に司書資格を取るにあたって受けた授業で絵本について多く触れたこと。第三に和光にはかなりの数の絵本があること。第四に絵本なら、本が苦手な人でも手にとりやすいだろうということでした。

決め手になったのはLRPのメンバーのひとり(館内の)絵本がある場所を知らない、と言ったこと。なんと、もっていない！和光には数多くの面白い絵本があるので、それを知ってもらいたい！そして、できれば絵本を手にとってもらうことで、少しでも多くの学生に「本って楽しい！」ということを体感してもらいたいと思い、企画しました。

絵本というと、子どもの読み物だとして成長するにつれ、読まなくなっていくますが、私は、良い絵本というのは年齢・性別問わずに読み続けられるものであり、いい年した大人が絵本を読むのは恥ずかしい、などとも思いません。また、子ども向けだから内容がつまらないとも思いません。絵本には絵本にしかない良さがあります。それを知ってもらい、今後の絵本との接し方に少しでも変化が起きればいいな、と思います。

とりあげた絵本たち

100万回生きたねこ / あけるな / アフリカのおくりもの / うそつきのつき / おしいれのぼうけん / おじさんのかさ / おどる 12 人のおひめさま / かいじゅうたちのいるところ / カフカの絵本 / かようびのよる / 急行「北極号」 / くだもの / ぐりとぐら / ぐるんぱのようちえん / こんにちは あかぎつね！ / 三匹のぶたの話 / 三びきのやぎのがらがらこん / 七人のふしぎなじいさま / ジャックとガイ / ジャンヌ・ダルク / 世界一ばかなわたしのネコ / 空とぶ船と世界 / 空の飛びかた / 檀君 / ちいさなうさこちゃん / つみきのいえ / てぶくろをかいに / 東京は海のそこ / としょかんライオン / 動物会議 / マーシャとくま / 魔女がひろった赤ん坊 / ますむら・ひろしの「ゴッホ型猫の目時計」 / まほうのえのぐ / やこうれっしゃ / ゆめどろぼう / ルリユールおじさん



なつかしい絵本もいっぱい！

本を紹介する難しさを
実感しました。

(芸術学科3年 NI)

この一年を
振り返って
ひとこと。

自分のことで忙しく
なってしまったので残
念ながら抜けますが、
短期間にいろいろでき
て楽しかったです。

(芸術学科1年 YKM)

もう少し、しっかり
しましょう。

(総合文化学科1年 AM)

混沌。個性のぶつけ合い。来
年の今頃もこの言葉を言いた
い。何故なら、“普通大学”化
する和光大学、“最後の砦”な
のだから。

(総合文化学科2年 ほらふき男爵)

個人的には竜頭蛇尾。

(表現文化学科4年 紙皿)

Let's Read Project は
不滅です！

(文学科4年 真田隼人)

自分のやりたいことを
しつつ、新しいことにも
挑戦した年でした。

(総合文化学科2年)

1年生が入り、更に新しく理想の自分になれた！

(総合文化学科1年 ドラ息子)

中心に入ってみたら、思ったよりも大変。

(表現文化学科2年)

美も学も 黄ばむ千紙に
綴られて 和の光のもと
書の花よ咲け

(総合文化学科1年 二都)

一年目より活動が活発になり、楽しかったです。国立国会図書館の地下に入れたのは良い体験でした。

(総合文化学科3年 つむじ)

今まで自分の知らなかった本を知ったり、自分が紹介をした本を読んでもらえたりと楽しい一年でした。

(芸術学科1年 彪)

夏に行った国会図書館ダンジョンが非常に楽しかったです。また行きたいねー。

(総合文化学科2年 九代目)



忘年会風景

LRPが送る

秋の企画は文庫本だけの本棚

送料「150文庫」です。

初巻だから150冊

……のつもりでしたが、

買ったいたら地域に増えています。

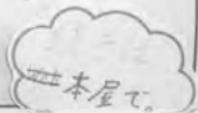
手紙に買えて

どこでも読める文庫本。

読書の進歩に「進んでいって」



LRPメンバー1冊



わ行

- 154 『我が名は青春のエッセイドラゴン!』……………41p
大槻ケンヂ 角川文庫 角川書店
- 155 『私にとっての20世紀』……………16p
加藤周一 岩波現代文庫 岩波書店
- 156 『12の月の物語：わちふいーるど』……………48p
池田あきこ 中公文庫 中央公論新社
- 157 『1940年代星ねずみ (20世紀SF)』……………85p
アイザック・アシモフ [ほか] 河出文庫 河出書房新社
- 158 『1950年代初めの終わり (20世紀SF)』……………85p
フィリップ・K・ディック [ほか] 河出文庫 河出書房新社
- 159 『1960年代砂の檻 (20世紀SF)』……………85p
クラーク、バラード [ほか] 河出文庫 河出書房新社
- 160 『1970年代接続された女 (20世紀SF)』……………85p
ティプトリー Jr [ほか] 河出文庫 河出書房新社
- 161 『1980年代冬のマーケット (20世紀SF)』……………85p
カード [ほか] 河出文庫 河出書房新社
- 162 『1990年代遺伝子戦争 (20世紀SF)』……………85p
イーガン [ほか] 河出文庫 河出書房新社

- 141 『燃える記憶』……………46p
小林フユヒ コバルト文庫 集英社
- 142 『モテる技術』……………22p
デイビッド・コーブランド ソフトバンク文庫 ソフトバンククリエイティブ
- 143 『モテる話術』……………22p
デイビッド・コーブランド ソフトバンク文庫 ソフトバンククリエイティブ
- 144 『モノレールねこ』……………48p
加納朋子 文春文庫 文藝春秋

や行

- 145 『闇の先にある光 (心霊探偵八雲シリーズ)』……………49p
神永学 角川文庫 角川書店
- 146 『雪蠅螂』……………75p
紅玉いづき 電撃文庫 アスキー・メディアワークス
- 147 『夢十夜：他二篇』……………61p
夏目漱石 岩波文庫 岩波書店
- 148 『夢にも思わない』……………55p
宮部みゆき 中公文庫 中央公論新社
- 149 『用心棒日月抄』……………69p
藤沢周平 新潮文庫 新潮社
- 150 『予告された殺人の記録』……………84p
G・ガルシア＝マルケス 新潮文庫 新潮社

ら行

- 151 『レヴューション No.3』……………58p
金城一紀 角川文庫 角川書店
- 152 『恋愛寫眞：もうひとつの物語』……………59p
市川拓司 小学館文庫 小学館
- 153 『老子・荘子の言葉100選』……………16p
境野勝悟 知的生きかた文庫 三笠書房

- 127 『"文学少女"と飢え渴く^{ゴースト}幽霊』…………… 74p
野村美月 ファミ通文庫 エンターブレイン
- 128 『"文学少女"と死にたがりの^{ビエロ}道化』…………… 74p
野村美月 ファミ通文庫 エンターブレイン
- 129 『"文学少女"と繋がれた^{フール}愚者』…………… 74p
野村美月 ファミ通文庫 エンターブレイン
- 130 『ぼくたち、Hを勉強しています』…………… 15p
鹿島茂、井上章一 朝日文庫 朝日新聞出版
- 131 『僕の妻はエイリアン』…………… 40p
泉流星 新潮文庫 新潮社
- 132 『本当はちがうんだ日記』…………… 41p
穂村弘 集英社文庫 集英社

ま行

- 133 『舞姫通信』…………… 58p
重松清 新潮文庫 新潮社
- 134 『マクルーハン』…………… 15p
W・テレンス・ゴードン ちくま文庫 筑摩書房
- 135 『摩天楼の四兄弟(ドラゴン)(創竜伝)』…………… 44p
田中芳樹 講談社文庫 講談社
- 136 『MAMA』…………… 75p
紅玉いづき 電撃文庫 アスキー・メディアワークス
- 137 『マリ&フィフィの虐殺ソングブック』…………… 69p
中原昌也 河出文庫 河出書房新社
- 138 『ミミズクと夜の王』…………… 75p
紅玉いづき 電撃文庫 アスキー・メディアワークス
- 139 『Mew Mew! : Crazy Cat's Night』…………… 74p
成田良悟 電撃文庫 アスキー・メディアワークス
- 140 『迷路館の殺人』…………… 55p
綾辻行人 講談社文庫 講談社

は行

- 113 『パウワウ! : Two Dog Night』…………… 73p
成田良悟 電撃文庫 アスキー・メディアワークス
- 114 『鋼の女 : 最後の警女・小林ハル』…………… 29p
下重暁子 集英社文庫 集英社
- 115 『はたらく青年』…………… 40p
原田宗典 角川文庫 角川書店
- 116 『×ゲーム』…………… 54p
山田悠介 幻冬舎文庫 幻冬舎
- 117 『ハワイ・南太平洋の謎』…………… 14p
秋道智彌 光文社文庫 光文社
- 118 『反社会学講座』…………… 14p
バオロ・マツアリーノ ちくま文庫 筑摩書房
- 119 『美女とは何か』…………… 26p
張鏡 角川ソフィア文庫 角川学芸出版
- 120 『美人物語』…………… 57p
島村洋子 光文社文庫 光文社
- 121 『一人で始める短歌入門』…………… 21p
栢野浩一 ちくま文庫 筑摩書房
- 122 『フィネガンズ・ウェイク』(1)～(4)…………… 84p
ジェイムズ・ジョイス 河出文庫 河出書房新社
- 123 『不思議の国のアリス』…………… 79p
ルイス・キャロル 岩波少年文庫 岩波書店
- 124 『不思議の国のアルバイト^{アイ}探偵』…………… 54p
大沢在昌 講談社文庫 講談社
- 125 『プチ哲学』…………… 7p
佐藤雅彦 中公文庫 中央公論新社
- 126 『フライ, ダディ, フライ』…………… 57p
金城一紀 角川文庫 角川書店

- 99 『伝説の勇者の伝説』(1)～(3) 47p
鏡貴也 富士見ファンタジア文庫 富士見書房
- 100 『点と線』 53p
松本清張 文春文庫 文藝春秋
- 101 『道徳と宗教の二源泉』 7p
ベルグソン 岩波文庫 岩波書店
- 102 『凶南の翼』 47p
小野不由美 講談社 X 文庫 講談社
- 103 『とらドラ!』シリーズ (1)～(3) 73p
竹宮ゆゆこ 電撃文庫 アスキー・メディアワークス

な行

- 104 『ないもの、あります』 38p
クラフト・エヴィング商会 ちくま文庫 筑摩書房
- 105 『ナポリタン』 25p
上野玲 小学館文庫 小学館
- 106 『にぎやかな眠り』 83p
シャーロット・マクラウド 創元推理文庫 東京創元社
- 107 『西の魔女が死んだ』 68p
梨木香歩 新潮文庫 新潮社
- 108 『二都物語』(上)(下) 83p
ディケンズ 新潮文庫 新潮社
- 109 『日本の商業デザイン』 25p
青幻舎
- 110 『日本廃線鉄道紀行』 39p
大倉乾吾 文春文庫 plus 文芸春秋
- 111 『庭ができました』 39p
銀色夏生 角川文庫 角川書店
- 112 『ネバーランド』 68p
恩田陸 集英社文庫 集英社

- 84 『チキンライスと旅の空』…………… 37p
池波正太郎 朝日文庫 朝日新聞出版
- 85 『ちぐはぐな^{からだ}身体』…………… 6p
鷺田清一 ちくま文庫 筑摩書房
- 86 『知識人99人の死に方』…………… 29p
荒俣宏 角川ソフィア文庫 角川書店
- 87 『地図の想像力』…………… 13p
若林幹夫 河出文庫 河出書房新社
- 88 『超弦領域』…………… 45p
大森望 創元SF文庫 東京創元社
- 89 『町長選挙』…………… 67p
奥田英朗 文春文庫 文藝春秋
- 90 『超能力四兄弟(ドラゴン)(創竜伝)』…………… 44p
田中芳樹 講談社文庫 講談社
- 91 『つかぬことをうかがいますが…』…………… 37p
ニュー・サイエンティスト編集部 ハヤカワ文庫 早川書房
- 92 『月の影影の海』(上)(下)…………… 46p
小野不由美 講談社文庫 講談社
- 93 『蹄鉄ころんだ』…………… 82p
シャーロット・マクラウド 創元推理文庫 東京創元社
- 94 『適当教典』…………… 38p
高田純次 河出文庫 河出書房新社
- 95 『凸凹デイズ』…………… 67p
山本幸久 文春文庫 文藝春秋
- 96 『デュラララ!!』…………… 72p
成田良悟 電撃文庫 アスキー・メディアワークス
- 97 『伝奇集』…………… 82p
J.L. ボルヘス 岩波文庫 岩波書店
- 98 『天国の扉は2つある』…………… 46p
小林フユヒ コバルト文庫 集英社

- 70 『「世界征服」は可能か?』…………… 24p
岡田斗司夫 ちくまプリマー新書 筑摩書房
- 71 『世界の名作 50 選』…………… 21p
金森誠也 PHP 文庫 PHP 研究所
- 72 『セックスレスキュー』…………… 13p
大橋希 新潮文庫 新潮社
- 73 『占星術殺人事件』…………… 52p
島田荘司 講談社文庫 講談社
- 74 『ソフトマシーン』…………… 81p
W・パロウズ 河出文庫 河出書房新社
- 75 『空の中』…………… 66p
有川浩 角川文庫 角川書店
- 76 『ソロモンの指環』…………… 35p
コンラート・ローレンツ ハヤカワ文庫 早川書房

た行

- 77 『たばこの本棚』…………… 36p
開高健 ぶんか社文庫 ぶんか社
- 78 『旅に出よう、滅びゆく世界の果てまで。』…………… 72p
万屋直人 電撃文庫 アスキー・メディアワークス
- 79 『魂をつなぐもの (心霊探偵八雲シリーズ)』…………… 49p
神永学 角川文庫 角川書店
- 80 『だめだこりゃ』…………… 36p
いかりや長介 新潮文庫 新潮社
- 81 『誰かに解かせたくなる算数・数学の本』…………… 19p
秋山仁 幻冬舎文庫 幻冬舎
- 82 『探偵小説辞典』…………… 53p
中島河太郎 講談社文庫 講談社
- 83 『地下鉄のザジ』…………… 81p
レーモン・クノー 中公文庫 中央公論新社

- 55 『山月記；李陵：他九篇』…………… 61p
中島敦 岩波文庫 岩波書店
- 56 『シェイクスピアを楽しむために』…………… 20p
阿刀田高 新潮文庫 新潮社
- 57 『屍鬼』(1)～(3)…………… 66p
小野不由美 新潮文庫 新潮社
- 58 『刺繍図案に見る古典装飾のすべて』第1・2集…………… 12p
紅会 青幻舎
- 59 『沈んだ世界』…………… 45p
J.G. バラード 創元SF文庫 東京創元社
- 60 『失樂園』(上)(下)…………… 80p
ミルトン 岩波文庫 岩波書店
- 61 『死に至る病』…………… 5p
キェルケゴール 岩波文庫 岩波書店
- 62 『芝居と映画と人生と』…………… 34p
池波正太郎 朝日文庫 朝日新聞出版
- 63 『自分を知るための哲学入門』…………… 6p
竹田青嗣 ちくま学芸文庫 筑摩書房
- 64 『シャイニング』(上)(下)…………… 51p
スティーヴン・キング 文春文庫 文藝春秋
- 65 『女王陛下のアルバイト^{アイ}探偵』…………… 52p
大沢在昌 講談社文庫 講談社
- 66 『初版金枝篇』(上)(下)…………… 12p
フレイザー ちくま学芸文庫 筑摩書房
- 67 『城』…………… 80p
カフカ 新潮文庫 新潮社
- 68 『新編百花譜百選』…………… 35p
木下杢太郎 岩波文庫 岩波書店
- 69 『数学物語』…………… 18p
矢野健太郎 角川ソフィア文庫 角川学芸出版

- 41 『競作五十円玉二十枚の謎』…………… 50p
若竹七海 [ほか] 創元推理文庫 東京創元社
- 42 『「恐怖の報酬」日記』…………… 33p
恩田陸 講談社文庫 講談社
- 43 『きょうも、いいネコに出会えた』…………… 33p
岩谷光昭 新潮文庫 新潮社
- 44 『キリストにならいて』…………… 5p
トマス・ア・ケンピス 岩波文庫 岩波書店
- 45 『空中庭園』…………… 64p
角田光代 文春文庫 文藝春秋
- 46 『空中ブランコ』…………… 64p
奥田英朗 文春文庫 文藝春秋
- 47 『クラウド・コレクター』…………… 65p
クラフト・エヴィング商会 ちくま文庫 筑摩書房
- 48 『下足番になった横綱』…………… 28p
川端要寿 小学館文庫 小学館
- 49 『月魚』…………… 56p
三浦しをん 角川文庫 角川書店
- 50 『結晶物語』(1)～(4)…………… 44p
前田栄 新書館ウィングス文庫 新書館
- 51 『紺地金泥般若心経』…………… 11p
立松和平 小学館文庫 小学館
- 52 『今夜は眠れない』…………… 51p
宮部みゆき 角川文庫 角川書店

さ行

- 53 『サウスパウンド』(上)(下)…………… 65p
奥田英朗 角川文庫 角川書店
- 54 『淋しいのはお前だけじゃな』…………… 34p
栞野浩一 集英社文庫 集英社

- 27 『幼なごころ』……………78p
ヴァレリー・ラルポー 岩波文庫 岩波書店
- 28 『親孝行プレイ』……………32p
みうらじゅん 角川文庫 角川書店

か行

- 29 『鏡の国のアリス』……………79p
ルイス・キャロル 岩波少年文庫 岩波書店
- 30 『格闘する者に〇』……………63p
三浦しをん 新潮文庫 新潮社
- 31 『華胥の幽夢』……………43p
小野不由美 講談社 X 文庫 講談社
- 32 『数のコスモロジー』……………18p
齋藤正彦 ちくま学芸文庫 筑摩書房
- 33 『語りつぐ人びと・アフリカの民話』……………10p
江口一久 福音館文庫 福音館書店
- 34 『奏でる少女の道行きは(黄昏色の詠使いシリーズ)』……………70p
細音啓 富士見ファンタジア文庫 富士見書房
- 35 『カラー図説毒草の誘惑』……………24p
植松黎 講談社 + a 文庫 講談社
- 36 『からいはいうまい』……………32p
椎名誠 小学館文庫 小学館
- 37 『歓喜する円空』……………11p
梅原猛 新潮文庫 新潮社
- 38 『きけわだつみのこえ(新版)』……………28p
日本戦没学生記念会 岩波文庫 岩波書店
- 39 『北のはてのイービク』……………79p
ピーバルク・フロイゲン 岩波少年文庫 岩波書店
- 40 『逆襲の四兄弟(ドラゴン)(創竜伝)』……………44p
田中芳樹 講談社文庫 講談社

- 12 『アンの青春』…………… 77p
モンゴメリ 新潮文庫 新潮社
- 13 『イブは夜明けに微笑んで(黄昏色の詠使いシリーズ)』…………… 70p
細音啓 富士見ファンタジア文庫 富士見書房
- 14 『家ができました』…………… 30p
銀色夏生 角川文庫 角川書店
- 15 『生きながら火に焼かれて』…………… 27p
スアド ヴィレッジブックス
- 16 『伊勢物語』…………… 60p
大津有一 岩波文庫 岩波書店
- 17 『異端の数ゼロ』…………… 17p
チャールズ・サイフェ ハヤカワ文庫 早川書房
- 18 『今、何してる?』…………… 31p
角田光代 朝日文庫 朝日新聞出版
- 19 『イルゲネス』(上)(下)…………… 71p
桑原水菜 Mag-Garden novels マッグガーデン
- 20 『イン・ザ・プール』…………… 62p
奥田英朗 文春文庫 文藝春秋
- 21 『ヴァイキング, ヴァイキング』…………… 78p
シャーロット・マクラウド 創元推理文庫 東京創元社
- 22 『海を失った男』…………… 43p
T・スタージョン 河出文庫 河出書房新社
- 23 『海の底』…………… 63p
有川浩 角川文庫 角川書店
- 24 『ウルトラマンの東京』…………… 31p
実相寺昭雄 ちくま文庫 筑摩書房
- 25 『絵で見る「もの」の数え方』…………… 23p
町田健 主婦の友社
- 26 『江戸俳諧歳時記』(上)(下)…………… 10p
加藤郁乎 平凡社ライブラリー 平凡社



Let's Read Project

ワ コ オ

「150文庫」ブックリスト

(2009年10月)

書名の50音順です。(書名、著者名、文庫名、出版社の順)

あ行

- 1 『アーサーとミニモイの不思議な国』(上)(下) 42p
リュック・ベッソン 角川文庫 角川書店
- 2 『アイヌ人物誌』 8p
松浦武四郎 平凡社ライブラリー 平凡社
- 3 『アイヌの碑』 9p
萱野茂 朝日文庫 朝日新聞出版
- 4 『赤い瞳は知っている(心霊探偵八雲シリーズ)』 49p
神永学 角川文庫 角川書店
- 5 『赤毛のアン』 76p
モンゴメリ 新潮文庫 新潮社
- 6 『「赤毛のアン」に学ぶ幸福になる方法』 4p
茂木健一郎 講談社文庫 講談社
- 7 『赤塚不二夫対談集 これでもいいのだ。』 9p
赤塚不二夫 MF文庫ダ・ヴィンチ メディアファクトリー
- 8 『アマデウスの詩、謳え敗者の王(黄昏色の詠使いシリーズ)』 70p
細音啓 富士見ファンタジア文庫 富士見書房
- 9 『アリソン』I~III(上)(下) 71p
時雨沢恵一 電撃文庫 アスキー・メディアワークス
- 10 『アルバイト探偵』 50p
大沢在昌 ^{アイ} 講談社文庫 講談社
- 11 『アンの愛情』 77p
モンゴメリ 新潮文庫 新潮社